

9

2026

# 教育

Educational Bulletin

# 時報

特集 | 読書バリアフリーについて

教育時報  
2026/9

特集  
読書バリアフリーについて



対面朗読サービスの様子（岡山県立図書館）



岡山県教育委員会

みんなで学んで かがやく未来

「おかやま教育の日」(11月1日)標語

1

## ■標点

### 「対話型鑑賞」の可能性

県教育庁教育次長 藤原 いずみ

## 特集

# 読書バリアフリーについて

2

### 【巻頭論文】誰もが読書に親しめる環境づくりを目指して～読書バリアフリーの理論と実践～

青山学院大学 教授 野口 武悟

6

### 【説明】第2期読書バリアフリー計画～すべての人に読書の喜びを～ 県教育庁生涯学習課

10

### 【事例紹介①】岡山県立図書館の障害者サービス 岡山県立図書館

12

### 【事例紹介②】津山市立図書館の障害者サービス 津山市立図書館

14

### 【事例紹介③】岡山県視覚障害者センターにおける読書バリアフリーの取組紹介

岡山県子ども・福祉部障害福祉課／岡山県視覚障害者センター

### 【事例紹介④】障害者IT機器展示体験コーナーの取組 障害者ITサポートセンターおかやま

15

### 【事例紹介⑤】一人一人の見え方と心に寄り添ったサービスを… 金光図書館

16

## ■子どもの声・保護者の声・地域の声

### テーマ：「放課後・学校卒業後の読書」

17

## ■グラビア

### 岡山県「ぱっちり！モグモグ」生活リズム向上優良活動表彰

### 「親育ち応援学習プログラム」でつながりづくりを！

18

## ■写真コーナー

### 写真だより

21

### ■随想 浅口市立鴨方西小学校 植田 浩康／井原市立青野小学校 大塚 理恵／赤磐市教育委員会 大坂 敬介

23

### ■中高生なんでもトーク<sup>(29)</sup> 倉敷市立連島南中学校 宮田 彩衣／創志学園高等学校 白金 里桜

24

## ■私の工夫

### ICTツール及びAI音声入力を活用した1年国語科における紹介文指導の工夫

岡山市立平井小学校 戸川 有紀

### 居心地のよいクラスにするために～生徒との人間関係の築き方～

倉敷市教育委員会学事課 星尾 大樹

### トライ&エラーで思いを実現！～知的障害特別支援学校で取り組むプログラミング教育～

県立邑久高等学校 谷藤 隆行

30

### ■登録博物館紹介 井原市立平櫛田中美術館／やかげ郷土美術館

31

### ■教育新着図書紹介 県立図書館

32

## ■県教委だより

◆創作の広場 総社市立秦小学校／津山市立津山東中学校

## 「対話型鑑賞」の可能性

県教育庁教育次長

藤原 いずみ

もともと美術鑑賞が好きで美術館などに行くことは多かったのですが、「対話型鑑賞」という鑑賞方法があるということをはっきり認識したのは、令和3年に文化振興課に着任した後でした。

「対話型鑑賞」とは、作品の専門知識に頼ることなく、参加者同士が感じたことや考えたことそのままを言葉にし、グループで対話しながら、作品の見方を深めていく美術鑑賞法です。県内でも、大原美術館や県立美術館などすでに長年にわたり実施されていること、福武教育文化振興財団の事業「ハロー！ミュージアム」で小学校を対象に広く実施されていることなどを知り、その様子を見学させていただいたり、実際にプログラムに参加してみたりしました。

その中でも特に印象に残っているのは、ある小学校の子どもたちの対話型鑑賞の様子を見た時です。大きく斧を振り上げた木こりの絵の前で、最初はモジモジしていた子どもたちが、「季節は冬だと思う。地面が白いのには雪なんじゃないか。」「空に浮かんでいる青い雲が面白い。」など次々と発言をしていく（女の子の方が積極的です）様子を目の当たりにし、その自由な視点と瑞々しい感性に驚かされるとともに、対話型鑑賞という芸術への新しいアプローチ方法に何かキラリと光る可能性を感じた瞬間でした。

脳科学者の中野信子氏は著書※の中で、「アートのたくさんふれていると、自分の見方が、ごく限られた一面的な見方かもしれないことに気づく知能がそだって」い

く、また「自分が『なにを感じたのか』を言葉にして共有し合うトレーニングによって、（略）柔軟な判断ができるようになったり、覚えた知識をつなげる力がみがかれたりする」と述べています。

今後、この対話型鑑賞が岡山で進化・発展し、様々な場面で取り入れられることによって、多くの子どもたちが自由に芸術を楽しんだり味わったりできるようになり、さらには多面的な視点や柔軟な発想が身につくことで、ワクワクや発見に満ちた人生を送ることにつながればいいなあ、と密かに期待をしているところなのです。

※中野信子『中野信子のこどもアート脳科学「わからない」を楽しむ高IQ脳のそだて方』（フレール館、2023年）



## 巻頭論文

誰もが読書に親しめる環境づくり  
を目指して

## ～読書バリアフリーの理論と実践～



青山学院大学教授

野口 武 悟

筑波大学大学院博士課程修了、博士（図書館情報学）。2006年4月に専修大学文学部専任講師となる。その後、准教授、教授を経て、2026年4月から青山学院大学コミュニティ人間科学部教授。現在、放送大学客員教授、公益社団法人全国学校図書館協議会理事長、文部科学省・厚生労働省視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会委員、千代田区図書館協議会会長、横浜市社会教育委員なども務める。主な著書に『学校の「読書バリアフリー」はじめの一步：学校図書館10の事例』（学事出版、2024年）、『誰ひとり取り残さない図書館サービス：多様なニーズに寄りそう8つの事例』（三和書籍、2025年）などがある。

1 「読書離れ」の背景にある  
読みづらさ

みなさんは、普段、読書に親んでいますか。文化庁の「令和5年度国語に関する世論調査」の結果によると、16歳以上の実に62.6%が「不読」（1か月に1冊も読書しない状態）だったのです。令和5年度に全国学校図書館協議会が行った「第68回学校読書調査」

の結果では、小学生（4～6年生）の「不読」率は7.0%でした。このことから、子ども以上に大人の「読書離れ」が深刻であることがわかります。

では、なぜ読む量が減ったのでしょうか。「令和5年度国語に関する世論調査」では、この点も調べています。最も多かった回答はスマホなどの「情報機器で時間が取られる」（43.6%）、次いで多かった回答が「仕事や勉強が忙し

くて読む時間がない」（38.9%）でした。

ここで注目したいのは、3番目に多かった回答です。それは「視力など健康上の理由」（31.2%）でした。つまり、読みづらいため、読書に親しめない人が3割もいるのです。この割合は年齢とともに上昇し、60歳代では41.9%、70歳以上では56.9%にのぼります。

令和7年度の日本の高齢化率は29.4%で、世界最高水準です。岡山県内でも市町村によっては、もっと高いところもあるでしょう。今後、高齢化率はさらに上昇すると予測されています。「超高齢社会」の現代にあつて、読みづらさを感じる人も、そうでない人も、誰もが読書に親しめる環境づくりが喫緊の実践課題となっています。

## 特別支援学校等の児童生徒の増加の状況(H27→R7)

- 直近10年間で義務教育段階の児童生徒数は1割減少する一方で、特別支援教育を受ける児童生徒数は倍増。
- 特に、特別支援学級の在籍者数(2.1倍)、通級による指導の利用者数(2.2倍)の増加が顕著。



(内閣府『令和8年版障害者白書』図表3-4)

図1 義務教育段階における特別支援教育の現状

## 2 読書バリアフリー施策の登場と進展

読みづらさは、高齢者だけが感じるわけではありません。最も切実なのは、視覚障害などの障害者です。当然ながら、大人に限ったことでもありません。子どもでは、特別支援教育を受ける児童生徒に読みづらさを感じるケースが多いとされます(図1)。また、読みづらさは、視力や視野といった視覚的な要因だけではなく、例えば、本のページがめくりづらいなどの身体的な要因などからも生じます。

令和元年に公布・施行された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(以下、読書バリアフリー法)では、こうした状態にある人を「視覚障害者等」と定義しています。具体的には「視覚障害、発達障害、肢体不自由その他の障害により、書籍(雑誌、

新聞その他の刊行物を含む)について、視覚による表現の認識が困難な者」(第2条第1項)のことです。ここでのいう視覚障害者等は、いわゆる「障害者手帳」を所持する人に限定していません。

どのような心身の状態にある人であっても、より豊かに生きていくために読書は欠かせません。そのために重要なことが、読書をあきらめざるを得ない環境(「読書にバリアのある環境」)を改善すること、すなわち読書バリアフリーを推進することです。この取組は、地域の公共図書館や点字図書館だけでなく、学校図書館、大学図書館、さらには出版社や書店でも必要です。

視覚障害者等が読める形式の本(例えば、点字図書、拡大文字図書、音声図書など)を入手できる割合が低いことを「本の飢餓」といいます。その割合は、日本を含む先

進諸国でも出版物全体の7〜8%程度とされ、国際的に本の飢餓への対策が急がれています。

こうした国際的な動向や、視覚障害者等の当事者団体による長年の地道な働きかけなどがあって、「障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与すること」（第1条）を目的とした読書バリアフリー法が制定されました。

視覚障害者等が読める形式の本の「買う」と「借りる」の両方の充実を目指しているのです。

また、基本的施策の実現に向けて、国には「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」（以下、推進基本計画）の策定を義務、地方公共団体には「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画」（以下、推進計画）の策定を努力義務としています（表）。

読書バリアフリー法では、基本理念、国の責務、地方公共団体の責務、基本的施策などを規定しています。基本的施策としては、「視覚障害者等による図書館の利用に係る体制の整備等」や「人材の育成等」など9つを挙げています。この法律の大きな特徴は、図書館だけでなく、出版社や書店による取組を促している点です。つまり、

表 地方公共団体における推進計画の策定状況

|       | 策定済              | 策定作業中・検討中       | 予定なし             |
|-------|------------------|-----------------|------------------|
| 都道府県  | 42/47<br>(89.4%) | 5/47<br>(10.6%) | 0/47<br>(0%)     |
| 政令指定市 | 9/20<br>(45%)    | 8/20<br>(40%)   | 3/20<br>(15%)    |
| 中核市   | 20/62<br>(32.3%) | 9/62<br>(14.5%) | 33/62<br>(53.2%) |

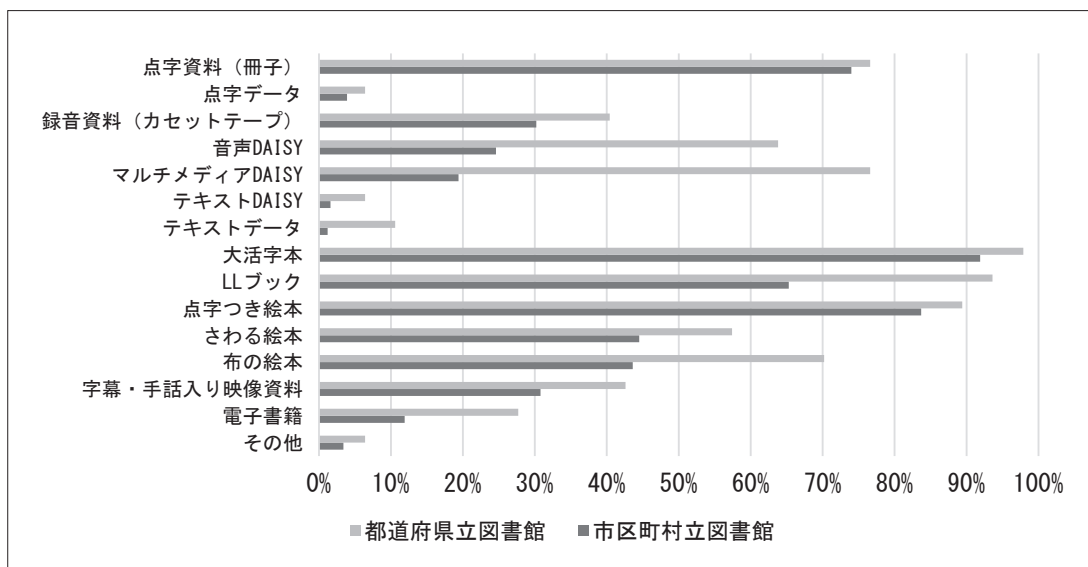
文部科学省「令和7年度視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画策定状況」より作成

### 3 読書バリアフリーの主な実践

読書バリアフリーの取り組みは、地域の公共図書館にあっては「障害者サービス」（図書館利用に

障害のある人へのサービス）として、これまでも実践されてきました。日本図書館協会が令和5年に作成した「図書館利用に障害のある人々へのサービス（障害者サービス）評価シート（公共図書館編）」では、取組内容として、大きく15項目挙げられています。

具体的には、①職員体制、②予算、③職員の研修、④指定・届出・会員登録、⑤利用登録、⑥設備・サイン（館内表示）、⑦読書支援・コミュニケーションを支援する機器、⑧所蔵資料、⑨資料製作、⑩実施しているサービス、⑪PR・利用案内・目録、⑫催し物・集会活動、⑬障害者サービスに関わる図書館協力者・ボランティア、⑭都道府県立図書館の障害者サービスに関する市区町村支援、⑮公共図書館相互ならびに他館種、他機関との連携、です。これらの項目からも明らかのように、読書バリ



(全国公共図書館協議会『2021 年度(令和3 年度)公立図書館における読書バリアフリーに関する実態調査報告書』表 2.1 をもとに作成)

図2 全国の公共図書館における所蔵状況

アフリーの取組には、利用者に直接サービスするだけでなく、体制づくりや環境整備が欠かせないということです。このことは、公共

図書館に限らず、学校図書館や大学図書館などにあっても同様です。もう少し詳しく、⑧所蔵資料の項目を例に見てみましょう。この項目では、全

部で17種類の視覚障害者等が読める形式の本を列挙しています。その主な種類と全国の公共図書館における所蔵状況を図2に示しました。

「大活字本」「LLブック」「点字付き絵本」といった出版社によって出版され、市販されている本の所蔵率が高いことがわかります。市販

#### 4 市町村も推進計画策定を

国と県が推進計画を策定したことは、すでに述べた通りです。地域の実情やそこに住む視覚障害者等のニーズをふまえた読書バリアフリーを推進するためには、市町村においても推進計画を策定することが望まれます。

読書バリアフリーの取組は、図書館や学校等によってまだ温度差が大きい現状にあります。その温度差を埋め、地域全体として取り組みの底上げを図るために、推進計画の策定が有効です。

国には、関係省庁、図書館や出版の関係団体、当事者団体といった読書バリアフリーに関わる関係機関・団体の代表が会する「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会」が常設され、年に数回、協議を行っています。市町村においても、同様の会議体を設けることで、読書バリアフリーの取り組みを共創することができます。このことは、取組の広がりと持続可能性を高めるうえで重要です。

推進計画の策定や協議の場づくりを通して、県内の全ての市町村において、地域ぐるみでの読書バリアフリーが一層進展することを願っています。

## 第2期読書バリアフリー計画 ～すべての人に読書の喜びを～

県教育庁生涯学習課

### 1 はじめに

岡山県では、障害の有無にかかわらず、誰もが読書をする事ができる社会の実現を目指し、読書環境の充実と支援を進めてまいりました。

このたび、令和4年度から実施してきた第1期計画に基づいた取組を継承し、さらに推進させるため、「第2期読書バリアフリー計画」を策定しました。

本計画は、教育、福祉分野が相

互に連携し、行政と関係機関が一体となつて着実に施策を推進するための共通の指針となるものです。

### 2 計画の概要

#### (1) 策定の趣旨と背景

本計画の策定の背景には、近年の法整備の進展と、読書環境を取り巻く社会情勢の変化があります。令和元年に、いわゆる「読書バ

リアフリー法」が施行され、視覚障害だけではなく、発達障害や肢体不自由等、様々な理由で「視覚による読書」が困難な人への支援が法的・社会的に求められることとなりました。地方公共団体においては、地域の実情に応じた計画の策定が望まれており、本県では令和4年度から令和7年度までを計画期間とする「読書バリアフリー計画」を令和3年度に策定しました。

その後、令和4年5月には「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」、令

和6年4月には「障害者差別解消法」の改正法が施行され、民間企業でも合理的配慮の提供が義務化されるなど、情報アクセシビリティ（誰でも必要な情報に簡単にたどりつけ、利用できること）への社会全体の関心は高まっています。また、AIの活用や音声合成技術の向上、音声読み上げに対応した電子書籍の普及等、近年のデジタル技術の進展により、読書のあり方は変わりつつあります。

このような背景を鑑み、本県では「第2期読書バリアフリー計画」を令和8年3月に策定しました。

#### (2) 計画期間

令和8年度から令和12年度までの5年間です。

#### (3) 計画の対象

障害者手帳の所持の有無にかかわらず、次のような理由で読書に困難を感じる人を対象とし、本計画では、これらの人を「視覚障害等のある人」としています。

- ・ 視覚障害（盲、弱視、盲ろう等）
- ・ 文字を読むことに困難がある発

達障害（ディスレクシア<sup>※1</sup>等）

- ・ 寝たきりや肢体不自由等により、書籍を持つこと等が難しい
- ・ 眼球の使用が困難である

※1 ディスレクシア…学習障害の一つ。全般的な知的発達に遅れはないが、文字の読み書きに限定した困難がある。

### 3 本県の現状と課題

本県で身体障害者手帳を所持している人のうち、障害の区分が「視覚」に該当する人は4270人、「肢体不自由」に該当する人は3万1554人です（令和6年度時点）。障害を理由に特別支援学級に通う県内の児童生徒は7850人、県内の特別支援学校に在籍する幼児・児童生徒は2358人です（令和7年度岡山県学校基本調査による）。通常の学級においても、学習障害を理由に、特別な支援を必要とする児童生徒の存在が確認されています。このほか、障害のある人に限らず、

## 資料1 視覚障害等のある人が利用できる読書手段の例

|                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 点字図書            | 電子書籍（読み上げ対応のもの） |
| 大活字本・拡大写本（拡大図書） | オーディオブック        |
| さわる絵本・布の絵本      | テキストデータ         |
| LLブック（※2）       | 拡大読書器等の読書支援機器   |
| 音訳図書（録音図書）      | 読書支援アプリ         |
| デージー図書（※3）      | 対面朗読サービス        |

### ※2 LLブック

読むことが困難な人のために、やさしい言葉で分かりやすく読みやすい形で書かれた本。ピクトグラム（絵記号）や写真・図を使っている。

「LL」とは、スウェーデン語の「LättLäst（分かりやすく読みやすい）」の略。

### ※3 デージー図書

活字による読書が困難な人のためのデジタル録音図書の国際規格。目次から読みたい章やページに飛ぶことができる。専用の再生機器や再生ソフトがインストールされたパソコン等を使って利用する。

音声デージー、マルチメディアデージー、テキストデージーがある。「デージー（DAISY）」とは、「Digital Accessible Information System（アクセシブルな情報システム）」の略。

### マルチメディアデージー

文字や画像が音声と連動している。読み上げ部分がハイライト表示されるため、どこを読んでいるかがわかりやすい。読み手の状況に応じ、文字の大きさや色、背景の色、音声の再生速度等を調整できる。



「化身した観音さま」 わいわい文庫 2024 ver.BLUE  
協力：市立小諸図書館 製作：（公財）伊藤忠記財団

病気や高齢等の様々な理由で読書に困難を感じている人の数は、さらに多いと考えられます。

このような状況に対し、県立図書館の障害者等サービスへの利用

登録者は1418人、県視覚障害者センターの利用登録者は641人とどまっています（令和6年

度時点）。読書が困難であると想定される人数と比べると、必要な支援が十分に行き届いていないのが現状であり、課題となっています。

潜在的なニーズに 대응するための効果的な情報発信に加え、図書館等のサービスの周知や、身近な地

域（市町村）での支援体制のさらなる充実が求められています。

## 4 施策の方向性

（1）アクセシブルな書籍等の充実と製作人材の養成

障害の種類や程度は様々であり、最適な読書の媒体や利用方法は人によって異なります（資料1）。

個々のニーズに応じた読書手段を確保するため、アクセシブルな書籍等（視覚障害等のある人が利用しやすい書籍等）の充実を図るとともに、これらの製作を支える専

門的な人材の養成に取り組み、継続的な支援体制の構築を目指します。

### 主な取組

## ●アクセシブルな書籍等の量的拡充と質の向上

県立図書館において、音訳図書（録音図書）、ＬＳブック、大活字本、デージー図書等を継続して収集するとともに、サピエ図書館<sup>（※４）</sup>の活用を推進します。また、来館せずに利用ができ、文字の拡大や音声読み上げ機能をもつ電子書籍サービスについて、現在、導入に向けた準備を進めているところです。

県視覚障害者センターにおいて、点字図書や音訳図書等を製作し、その資料データをサピエ図書館へ提供することで、全国的な共有と利活用の促進を図ります。

※４ サピエ図書館…視覚障害等がある人に対し、点字図書、録音図書、目と耳で読める電子書籍のデータを無料で提供するインターネット上の図書館。パソコンやスマートフォン、専用機器で資料の読み聞きができるほか、資料の貸出を依頼することもできる。

## ●製作人材の養成とスキルアップ

点字・音訳図書等の製作には高度な技術が必要で、習得に時間がかかります。さらに、製作するボランティア等の高齢化等により、人材の養成が喫緊の課題となっています。

県視覚障害者センターにおいて、ボランティア等の養成研修や継続的なスキルアップのための研修を実施し、人材の確保に努めます。

## （２）読書を支援する環境の充実

資料を円滑に利用するための設備・サービスの充実や、関係機関との連携により、視覚障害等のある人が読書しやすい環境を整備します。

### 主な取組

## ●県立図書館の設備等の充実

県立図書館において、点字やピクトグラム（絵記号）を用いた分かりやすい案内表示をはじめ、拡大読書器等の読書支援機器を整備します。また、対面朗読サービスや資料の郵送貸出サービス等、利用者の利便性を高める取り組みを

継続します。

## ●専門性の向上と広域支援の構築

県立図書館において、公共図書館や学校図書館の職員等を対象に、利用者のニーズに沿った適切な支援方法を学ぶための研修を実施し、利用者が身近な地域で支援を受けられる体制づくりに取り組みます。また、公共図書館への巡回相談において、読書バリアフリーに関する市町村からの相談に対応します。

## ●ＩＣＴ機器等の利活用支援

障害者ＩＴサポートセンターおかやまと連携し、パソコンやスマートフォン、タブレット端末、読書支援アプリ等の利用方法に関する相談・習得支援を行い、視覚障害等のある人がＩＣＴ機器等を有効に利活用できるようにします。

## ●学校における読書支援

インクルーシブ教育システムの理念に基づき、視覚障害等のある児童生徒が多様な読書手段を享受できるよう、ニーズに応じた情報提供や支援の充実に努めます。

また、学校のＩＣＴ環境を活か

し、視覚障害等のある児童生徒が情報端末を読書のツールとして活用できるよう努めます。特別支援学校においては、公共図書館等と連携し、情報端末を活用した読書支援サービスの利用を促進します。

## （３）図書館サービス等の情報発信

県立図書館、県視覚障害者センター、障害者ＩＴサポートセンターおかやまの視覚障害等のある人に向けたサービスや、サピエ図書館を含むインターネットを利用したサービス等の内容や利用方法を分かりやすく発信し、支援が必要な人に情報が届くように努めます。

### 主な取組

## ●広範な周知活動

視覚障害等のある人だけでなく、その家族や支援者、教育・福祉・労働・医療関係者、ボランティア等に対し、図書館サービス等について、様々な機会を通じて幅広く周知を図ります。

## ●広報媒体の多角化とウェブアクセシビリティの向上

ホームページやリーフレット等

- を通じた周知に加え、県立図書館ではウェブアクセシビリティ（誰もが支障なくホームページ等の情報にたどりつき利用できること）に配慮したホームページの改善に努め、SNSや動画を活用した分かりやすい情報発信を行います。
- サービス紹介と体験機会の提供  
眼科医療機関や障害福祉サービス事業所等に対し、読書バリアフリーに関するサービスを紹介します。また、県内のイベント等多様な読書手段を紹介し、県民が本サービスを実際に体験できる機会を設け、社会全体の理解と関心を深めます。
- 5 計画の推進体制と目標値
- (1) 推進体制の構築  
教育委員会・福祉部局の各関係課、県立図書館、県視覚障害者センター、障害者ITサポートセンターおかもやまが連携し、取組を推進します。
- (2) 目標指標による進捗管理

- 令和12年度に向けた目標数値を設定し、進捗を確認します（資料2）。
- 6 おわりに  
読書は、乳幼児期から高齢期までの一生涯にわたり、個人の学びと成長を支える基盤となります。それは単なる教養や娯楽の手段にとどまらず、社会生活を営む上で必要な情報を取得し、自己形成や就労、社会参加を支える重要な活動です。
- この読書の喜びをすべての人が受けられる社会の実現を目指し、岡山県内のどこにいても、誰もが自由に本を読み、学び、楽しむことができる読書環境づくりに取り組んでまいります。
- 第2期読書バリアフリー計画  
(県生涯学習課ホームページ)  
<https://www.pref.okayama.jp/page/771238.html>
- 

## 資料2 第2期読書バリアフリー計画における目標指標

### (1) 視覚障害等のある人が利用しやすい書籍等の充実及び製作に携わる人材の養成に関するもの

| 項目                                                        | 現況数値 (R6)             | 目標数値 (R12) ※     |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------|------------------|
| 県視覚障害者センターで点訳奉仕員、朗読奉仕員の養成研修を受講修了した人の数<br>※目標数値は令和8年度からの累計 | 点訳 7人／年度<br>朗読 14人／年度 | 点訳 40人<br>朗読 60人 |

### (2) 読書を支援する環境の充実に関するもの

| 項目                              | 現況数値 (R6) | 目標数値 (R12) |
|---------------------------------|-----------|------------|
| 意思疎通支援者の県登録者数<br>(盲ろう者向け通訳・介助員) | 75人       | 90人        |
| 障害者ITサポートセンターおかもやまの利用者数         | 736人／年度   | 840人／年度    |

### (3) 図書館サービス等の情報発信に関するもの

| 項目                            | 現況数値 (R6) | 目標数値 (R12) |
|-------------------------------|-----------|------------|
| サピエ会員（個人会員）の登録者数              | 334人      | 400人       |
| 県立図書館障害者等サービスの登録者数            | 1,418人    | 1,800人     |
| 県立図書館での障害者向け資料の貸出数<br>(タイトル数) | 5,620／年度  | 6,000／年度   |

## 事例紹介①

# 岡山県立図書館の 障害者サービス

岡山県立図書館

## 1 はじめに

平成16年9月25日、現在の岡山県立図書館は開館しました。平成12年1月に施行された「岡山県福祉のまちづくり条例」に基づき、すべての利用者にとって使いやすい（ユニバーサルデザイン）の施設として設計された図書館ですが、開館から20年以上が経過しましたが、今も多くの方にご利用いただいています。

## 2 読書バリアフリーの取組

県立図書館では、利用される方にとって図書館を使うこと自体が障害とならないよう配慮しています。道路から一階の点字付き案内板まで続く点字ブロック、段差のないフロアや車いすと人がすれ違うことのできる書架間隔、オストメイト対応の多目的トイレ、階段の手すりは高さの異なる2種類を取りつけ点字を施すなど、多くのユニバーサルデザインを取り入れています。また、老眼鏡や拡大読書器を設置しているのも、それぞれ用途に合わせて利用していただいています。聴覚が不自由な方に対しては筆談での相談を行っています。

平成26年には、バリアフリーコーナーとして、「いきいき読書ひろば」を設置しました。文字のサイズを大きくして行間や余白も調整された大活字本や知的障害や

学習障害のある方が理解しやすいように工夫されたＬＬブックなどのバリアフリー資料を展示したり、音声に合わせてモニターに画像を表示する、視覚的な読書補助機能のあるマルチメディアディスプレイのデモンストレーションを行ったりしています。また、児童資料部門では令和8年2月に「りんごの棚」を設置しました。これはスウェーデン発祥の図書館サービスで、障害などにより本を読むことが難しい子ども、その家族の方、支援す



りんごの棚

る方に向けて、誰もが利用しやすい資料や読書をサポートする道具を展示しています。

令和4年3月に「岡山県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画」（岡山県読書バリアフリー計画）が策定されたことを機に、県立図書館でも障害者サービスに使用する録音図書機器の更新や台数の充実を図り、利用者の要望に遅滞なく対応できるようにしました。さらに、この期間にはオンラインでの対面朗読を試行し、令和7年10月から正式なサービスとして実施しています。

令和8年2月に策定された第2期同計画では、第1期で見えた課題として、図書館サービスについての情報発信不足があげられており、県立図書館の障害者サービスやサピエ図書館等のインターネットを利用したサービスの周知が求められています。また、読書を支援する環境の充実として、公共図書館や学校図書館の職員等を対象

### 3 障害者サービスの紹介

リー法）にもあるとおり、これは障害の有無にかかわらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられることを目指したサービスであり、本を読みたい・学びたいという想いに応えるため、利用者の知る権利を保障する図書館としての基本的機能の一つです。

県立図書館では、様々な障害者用資料を用意し提供しています。

視覚に障害がある方や、活字による読書が困難な方には、館内の対面朗読室で、希望の資料を代読する対面朗読サービスも実施しています。現在、年間延べ300回を超える利用があり、当館に所属しているボランティアの方々が活動しています。対面朗読については、前述のとおりオンラインでの対面朗読も実施しており、来館が

A black and white photograph showing two people at a computer workstation. One person is seated and looking at a document, while the other is seated across from them, gesturing with their hands. A transparent barrier is placed between them.

## 対面朗読サービス

市町村立図書館が障害者サービスを行うのに必要な場合は、当館からバリアフリー関連の資料も貸出を行っています。各館の障害者サービスの実施状況によっては県

4  
おわりに

県立図書館には毎年延べ80万人が来館され、110万冊以上の資料が貸し出されています。その中には、通常の活字による読書が困難な方の利用もあり、バリアフリー資料もたくさん利用されています。また、県立図書館では、令和8年3月に第5次中期サービス目標を策定し、5つの基本的性格の中の一つの「県民に開かれた図書館」の中で多様なニーズに応じたサービスの提供を<sup>うた</sup>謳っています。そこには障害のある方の読書に対するニーズも含んでおり、図書館として、引き続き読書バリアフリーに対応したサービスに一層の力を入れていきます。

## 事例紹介②

### 津山市立図書館の 障害者サービス

■ 津山市立図書館

#### 1 はじめに

障害があっても一人でも多くの方に読書を楽しんでいただきたいという思いから、津山市立図書館では、様々な障害者サービスに取り組んでいます。令和2年には、コロナ禍に突入し、通常業務としては、先が見えない長期の非接触での図書館サービスの提供を余儀なくされ、どうすればより良いサービスができるか模索する日々が始まりました。

#### 2 サピエ図書館の利用について

当館では、平成30年（2018年）6月にサピエ図書館のデジタル図書貸出を開始いたしました。現在、当館でのサピエ図書館のご登録者の方は14人で、貸出開始年度から、昨年度末（令和7年度末）までで合計1,831点の貸出がありました。

サービスが必要とされている方々に隔々まで行き届いているとは到底言えないのが現状ですが、毎年少しずつ、利用者を増やしています。昨年には、視覚障害者協会津山支部の皆様が来館され、障害者サービスについて説明してほしいとの依頼があり、その機会に新しく登録された人もいます。改めてサービスの周知の重要性に感じていきます。

#### 3 バリアフリーコーナーの設置

令和5年6月に障害者サービスに重要な2つのコーナーを常設設置しました。

まず、一般書架の表紙見せできる書架にバリアフリーコーナーを設置しました。

1段目には、サピエ図書館、読書バリアフリーに関するチラシなどを置いていきます。

2段目の棚には、ししブック、3段目には、伊藤忠商事に毎年寄贈を依頼している『わいわい文庫』を平成30年（2018年）から現在まで揃えています。この『わいわい文庫』は、一般に、『マルチメディアデージー』と呼ばれるもので、ご寄贈いただいています。障害のある方への利用が許諾されているCD2枚と、障害のある無しに関わらず、どなたでも借りることができるブルーレーベルのCDが1枚ずつ送られてきます。パソコンなどで、文字の大きさを変えたり、読み上げの速度を自由に変えたりすることもでき、色の反転もできます。市立図書館はもとより、市内の小・中学校にも、ぜひ、このマルチメディアデージーを所蔵し、読むことに不由を感じている児童の皆さんのために読書を楽しめる機会を増やしてあげてほしいと思います。

4段目には、大活字本の一部を、5段目には、オーディオブックを配架しています。多くの方の目に触れやすいよう図書館入口から真正面に進んでいただいた書架に設置しています。



バリアフリーコーナー

また、児童コーナーの書架に、スウェーデンの図書館からスタートした「りんごの棚」を設置しました。

オンデマンドで購入した「大きな文字の青い鳥文庫」や、触っ

#### 4 電子書籍の導入について

津山市立図書館では、令和6年



りんごの棚

て楽しめる点字絵本、子ども達にも分かりやすく説明されている手話の本や、雑誌「テルミ」、優しく分かりやすい言葉で書かれたしブック、また、小さな子どもたちも楽しめるアラビアンナイトや、童話集などのオーディオブックなどを配架しています。

（2024年）7月から、津山圏域定住自立圏図書館相互利用事業で「つやまエリアデジタルライブラリー」として電子書籍貸出サービスを導入しました。このサービスは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどから電子書籍を借りて読むことができ、津山圏域（津山市・鏡野町・勝央町・奈義町・久米南町・美咲町）に在住・在勤・在学の方が対象で図書館の貸出券があれば利用できます。文字拡大や音声読み上げ機能などは先程のマルチメディアデジ同様に、バリアフリー機能も備えています。貸出期間は2週間で、貸出は3点まで、予約も3点まで可能です。こちらのメリットは、貸出期限の2週間が経過すると自動的に返却されますので、返し忘れや来館する必要がありません。

図鑑や、児童書、コミックエッセイなども含めて現在、約3万コンテンツ所蔵しています。今年度は、職員が市内の各小・中学校に利用方法を説明し、一校でも多くの学校に活用してもらえるように働きかけを行っています。



車椅子用席



拡大読書器



筆談ボード



コミュニケーションボード



リーディングトラッカー ルーペ

最後に、障害者サービスで使われる道具について、窓口に設置しているものをご紹介します。まず、拡大鏡（ルーペ）、シニア眼鏡、読書補助具としてリーディングトラッカー、コミュニケーションボード、筆談ボードなどを用意しています。また、閲覧席での工夫としては、車椅子での利用が可能な席、拡大読書器を使える席もあります。

#### 5 おわりに

近年、あちこちで、マルチメディアデジや電子書籍などの普及により、読書にも新しい環境が整い始めています。読むことに困難を抱えている方々にも、手軽に本を楽しむことができる機会が増えることを願いながら、津山市立図書館として、そのお手伝いが少しでもできるよう、これからも、紙の本、電子書籍、デジ図書などのサービスを更に充実させていきたいです。

## 事例紹介③

### 岡山県視覚障害者センター における読書バリアフリー の取組紹介

岡山県子ども・福祉部障害福祉課  
岡山県視覚障害者センター

完成した点訳・音訳図書は、それぞれセンターの蔵書として利用者に貸し出すとともに、データをサピエ図書館に登録し、全国の視覚に障害のある人に対して提供しています。

#### 2 プライベート点訳・音訳サービス等

利用者の方が持参される資料の点訳・録音や対面で朗読するサービスを提供しています。

#### 3 ボランティアと連携したICT機器のサポート活動

情報取得や読書に必要なICT機器を利用する方法についてサポートしています。

岡山県視覚障害者センターでは以下のような事業を実施しています。

#### 1 点訳・音訳ボランティアの養成と活動

毎年実施しているボランティア養成講座を修了された多くの方がボランティアとして活動しています。

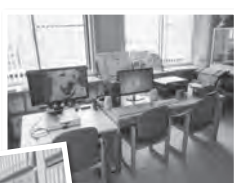
点訳図書の製作は、活字の資料や図書をパソコンで点訳します。音訳図書の製作は、ボランティアが読み上げた音声を録音、編集し、CDに書き込みます。

◇岡山県視覚障害者センター

岡山市北区西古松268-1

休館日 毎週火曜日、祝日、

年末年始



## 事例紹介④

### 障害者IT機器展示 体験コーナーの取組

障害者ITサポートセンターおかやま



団体の学生見学の様子

障害者ITサポートセンターでは、重度障害者用意思伝達装置、上肢障害向け入力装置、ディスプレイ図書録音再生機、障害者向けアプリを体験できるタブレットなど、多様な支援機器を自由に見て触れ

て学ぶことができます。実際に機器を試しながら、「どのようなIT機器があり、何ができるのか」、そして「自分や身近な人にどのように役立つのか」を具体的にイメージできる場として、多くの方に

#### ●障害関連の利用者数の推移(人)

| 区 分    | R5  | R6  | R7 |
|--------|-----|-----|----|
| 視覚障害   | 12  | 9   | 16 |
| その他の障害 | 106 | 103 | 67 |
| 計      | 118 | 112 | 83 |

利用されています。年間約七百名が訪れ、その半数は医療や福祉を学ぶ学生による団体見学で、将来支援に関わる人材が障害者向けIT機器への理解を深める貴重な機会にもなっています。視覚障害に関する相談は全体の2割程度で、最近では拡大読書器の問い合わせが増えており、必要に応じて図書館や視覚障害者センターなど専門機関へつないでいます。さらに、録音図書や対面朗読など、文字を読むことが難しくなっても読書が続けるための具体的な方法を紹介し、失われかけた「楽しみ」を取り戻すお手伝いも行っています。諦める前に、ぜひ一度、周りの方や相談機関にご相談ください。

## 事例紹介⑤

# 一人一人の見え方と心に 寄り添ったサービスを…

■ 金光図書館

## 1 はじめに

当館内には青い鳥点訳グループがあり、製作された点字図書を図書館で所蔵し、貸出を行なっています。また、グループと共催でボランティアの養成等にも取り組んでいます。現在は、点字図書だけでなく、音声デジジー・テキストデジジーの製作にも力を入れています。そして、全国どなたにも読書を楽しんでもらうため、データをサピエ図書館にアップロードしています。また、ロービジョンの

方には、利用しやすいよう、カウセンシングの上、リクエストに応じた媒体（テキスト・PDF等）を製作して提供しています。

## 2 点字図書館としての取組

- (1) バリアフリーコーナーの設置
- (2) 点字図書・デジジー図書等の製作・貸出
- (3) 点訳・音訳ボランティアの養成
- (4) 対面朗読・点字印刷等のプライベートサービス
- (5) 再生機器などの貸出サービス等を実施しています。

- また、普及活動と致しまして、
- (1) 近隣の小学校への読書バリアフリー教育
  - (2) 近隣の眼科と連携
  - (3) 地元、福祉のお祭りへのワークショップ参加

上記のような活動を積極的に行っていくことで、地域の方々に図書館サービスを広く認知していただくことを目的としています。

以前、図書館の取り組みを知った近隣の眼科さんから、「徐々

に視力が落ちて、いずれ失明するが、目が見える間は墨字で読書を読ませてあげたい患者（以後Aさん）がいる。」と、本人の承諾を得て相談されました。数日後、ご家族と一緒にAさんが来館されました。希望に添ったサービスを提供させてもらうため、文字や背景の色、フォントサイズ等、どのようにすれば、墨字を読むことが楽なのか、聞き取りをしました。カウセンシングすると、視力が落ちよう中、並行して点字を読めるようにしたいとの強い要望もありました。当館としてもできるかぎ



音訳体験の様子

り協力させていただきました。Aさんの努力もあって、現在では触読できるようになりました。

眼科さんとは、患者さんのことだけでなく、災害時の行動のあり方や、ICT機器等、幅広く意識・情報共有しています。

## 3 おわりに

当館にご相談にいられた方は、「図書館がこんなサービスをやっているとは知らなかった」と、一様に驚かれます。未だ、図書館は本の貸出のみと思っている方が多くいます。当館は、視覚障害者だけでなく、読むことに困難が伴うすべての方にサービスを提供しています。なかなか周知されていないのが実状です。読書バリアフリーサービスを必要とする利用者、図書館とが繋がりにくいという大きな問題点と言えるでしょう。このような課題はありますが、今後もサービスを充実させつつ「誰もが読書を楽しめる」よう、努めてまいりたいと思います。

## 子どもの声

## 保護者の声

## 地域の声

9月のテーマ：「放課後・学校卒業後の読書」

### 「保護者から」 放課後・そして学校卒業後の読書

本藤 雅子

私には以前より図書館は静かに本を読んで過ごす所というイメージがありました。

長い間、周りの状況が理解出来ない発達障害がある娘を図書館に連れて行くことは出来ないと思っていました。

ただ、文字が読めない娘でも絵で伝わることが多くあり、絵本を読むと笑顔で話を聞いてくれたりすることもあります。

そんな娘の特別な場所は学校の図書館でした。

学校の図書館には大きな絵本や仕掛けのある絵本がたくさんあり、娘は目を輝かせて楽しそうに本をめくる姿を幾度も目にしました。

話すことの出来ない娘ですが、絵本を見たり聴いたりすることで、少しずつですが言葉を覚え、気持ちを伝えようとしてくれるようになりました。

本の大切さはわかっていましたが、なかなか地域の図書館に連れて行くことはなりませんでしたが、しかし最近になって「読書バリアフリー」という言葉を知り、私の図書館のイメージは大きく変わりました。

現代の図書館は紙の本を貸し出すだけの場所だけでなく、文字を大きくできる電子書籍や耳で聴くオーディオブック、文字と音声か

連動するデジタル図書など、障害があってもなくても誰もが本を楽しめる環境が整えられてきていることに驚きました。

放課後や卒業後の空いた時間に図書館で出掛けて、特性に合ったスタイルで本に触れ、新しい知識に出会い、本を通じて人とつながることはとても大切な事だと思います。

そのためにも在学中から地域の図書館を訪れる機会を作ること、卒業後もここに來ることが出来るという安心感につながるように思います。

遅くはなりましたが、私も今年学校を卒業した娘と一緒に、地域の図書館を訪れ新しい本との出会いを今から楽しみにしております。

### 「学校から」

### 岡山盲学校の図書室

影山 和行

本校は、全盲から弱視まで視覚に障害のある児童生徒が通う学校です。このため、本校の図書室には、他の学校にはないものが多いです。点字本。これに對して、通常の文字で書かれた本は墨字本と呼んでいます。また、大活字本という、大きい文字で書かれた小説や絵本、漫画があり、墨字本を読むための、拡大読書器も設置しています。さらに高

等部には専攻科の理療科があるため、あん摩、鍼、灸に関する専門書もあります。また、書籍の内容を音声で聞くことができますようにCDや、デジタイズ図書というデジタル録音図書もあります。デジタイズ図書は専用の再生専用機であるプレクストークで聞くことになります。他にも、触って感触を楽しむことができます。昨年年度からは拡大しやすい電子書籍（雑誌）も取り入れていきます。

このように、見えにくさのある方でも本に親しめるように、いろいろな種類の本や読書をするための機器を揃えています。しかし、残念ながら、図書室の利用は活発と言える状態ではありません。そんなとき、思わぬところから贈り物をいただきました。ニュー

スや新聞でも取り上げられたもので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれません。実はこのたび、図書室と同じ階に「おかもう ふれあいパーク」と名付けた部屋を新設しました。視覚障害のある方々に、動物の姿を知ってもらいたいとして、1.7mのキリンをはじめとして、リアルな28体もの布製の動物模型を寄贈していただいたものを展示している部屋です。模型に触れて、気

になった動物の生態を図書室の図鑑で調べたり、物語に登場する動物の模型に触れてみると、読書と連携した学びの場としていけば、図書室の利用の増加につながるのではないかと期待しています。

興味のある方は、ぜひおかもう ふれあいパークと図書室にお越しただきたいと思っています。

（岡山盲学校 教諭）

## 岡山県「ぱっちり!モグモグ」生活リズム向上優良活動表彰



岡山県  
「ぱっちり!モグモグ」  
生活リズム向上  
マスコットキャラクター

岡山県では、毎年、「ぱっちり!モグモグ」生活リズム向上キャンペーンを行っています。  
令和7年度、工夫した取組を行っている7団体を優秀賞として表彰しました。優秀賞の中でも、  
他団体へ普及すべき特に優れた活動を行っていると思われる団体を最優秀賞として表彰しました。  
詳しい活動内容は、生涯学習課HPに掲載しています。



### 津山市立喬松小学校

「喬松 みんなで やってみよう！」

### 井原市立青野小学校

「育てよう、自分を自分で健康にする力！  
～『けてぶれ』で、体感・実感・  
ぐっすり睡眠習慣！～」

### 新見市立矢神小学校愛育会

「親子でにこにこチャレンジ週間」



### 岡山市立建部小学校

「ヘルスアップカードを中心とした取組」

### 新見市立千屋小学校

「家族みんなで生活リズム改善！  
かがやく千屋っ子」

### 新見市立本郷小学校

「生活宿題・メディアコントロール・健康ビンゴ」

### 鏡野町立南小学校

「南っ子チャレンジ」



▲津山市立喬松小学校



▲井原市立青野小学校



▲新見市立矢神小学校

## 「ぱっちり!モグモグ」生活リズム向上キャンペーン

実施  
時期

- キャンペーン月間（11月）
- キャンペーン週間  
（5月、9月、1月の各2週間）

詳しくは、岡山県生涯学習課の  
ホームページを御覧ください。



## 「親育ち応援学習プログラム」でつながりづくりを!

### 「親育ち応援学習プログラム（通称「親プロ」）とは

参加者同士が交流しながら、子育てについて、ともに気づき、楽しく学び合うことのできる「保護者」を対象としたプログラムです。また、参加者同士がつながり合い、支え合うきっかけづくりにもなります。

交流

学び

保護者が感じている  
「親プロ」の良さ

共感

安心

### 令和7年度に活用された「親プロ」Best 3

#### 1 「自分でできたよ!うれしいな～入学までに応援できること～」(就学前)

小学校の入学説明会や就学時健康診断での実施に最適です。  
小学校入学前の保護者の不安を和らげます。

#### 2 「そいえば自分も…考えよう認めよう ～子どものいいところ・気になるところ～」(乳幼児)

子ども一人ひとりの個性や発達の様子には違いがあることを理解し、  
それぞれの存在の大切さを再認識できます。

#### 3 「子育てのイライラとうまく付き合おう」(乳幼児)

子育ての中で生じる「イライラ」という感情を振り返り、  
その感情とどのように向き合い、うまく付き合うかを考えます。



▲親プロ実施の様子



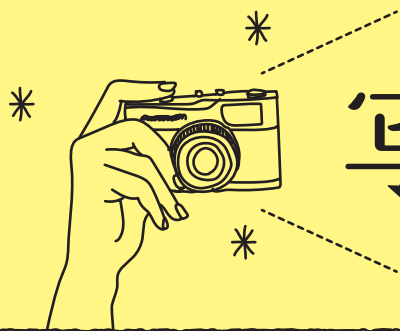
保護者の感想

- グループの皆さんに共感してもらい、多くの人と関わる楽しさを実感しました。
- 皆さんも同じことを悩まれているんだということが分かりました。
- いろいろな意見を聞き、固定観念を変えていく必要があると感じました。

資料のダウンロードは  
こちらから→

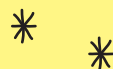


「親プロ」のお問合せは、岡山県教育庁生涯学習課、岡山教育事務所生涯学習課、津山教育事務所生涯学習課まで



# 写真だより

Photo News



## 【県立興陽高校】一人暮らしの高齢者の方に手作りお菓子をお届けしました

6月18日、興陽高校家政科食物科学類型の3年生の生徒たちがメニューやパッケージ、ラッピングまでを自分たちで考えて、一人暮らしの高齢者の方にお菓子をお届けしました。平成6年度から始まったこの取組は、今回で33回目になります。



手作りお菓子



お菓子と笑顔をお届け



民生委員さんにもプレゼント

## 【県立瀬戸南高校】思いを込めて作った点字カードを贈呈しました

6月26日、瀬戸南高校生活デザイン科福祉コースの3年生の生徒たちが、学んだ技術で役に立ちたいという想いで、食材紹介カード約500枚を点字で作成し、県内の飲食店に贈呈しました。生活デザイン科福祉コースでは、福祉の専門的な知識・技術を日々学んでいます。



心を込めて作成中



代表生徒3名



点字カード約500枚を贈呈

県立学校の生徒の活躍を詳しく紹介!

県教育委員会の取組や、教員採用試験についても紹介していますよ

岡山県教育委員会公式note



## 【県立和気閑谷高校】

### 産学官連携で企画・開発したバスソルトがノベルティに採用されました

和気閑谷高校が産学官連携で企画・開発した「ふじのかおりのバスソルト」が中国銀行全店舗のノベルティとして採用されることになり、令和8年6月30日に中国銀行本店で納品式が行われました。



納品式の様子



高校生はオンライン参加



ふじのかおりのバスソルト

## 【県立東備支援学校】「とうび市」で生徒たちが販売活動を行いました

7月6日、東備支援学校で「開店！東備支援学校とうび市」が開催されました。保護者の方や地域の方々を対象に野菜や備前焼などが販売されました。



野菜班の様子



窯業班の様子



生徒たちが作成した備前焼

## 【岡山県健康の森学園】

### 「森のおみせ」開店10周年記念セミナーが開催されました

令和8年7月、岡山県健康の森学園のアンテナショップ「森のおみせ」が開店10周年を迎えました。7月8日、10周年を記念してセミナーが開催されました。



記念撮影



森のおみせ



ガラポン抽選会の様子

## 【県立瀬戸高校】「真夏のセト☆フェス」が開催されました

7月15日、瀬戸高校で総合的な探究の時間における発表会「真夏のセト☆フェス」が開催されました。12月には「クリスマスのセト☆フェス」が開催予定です。



3年生代表生徒



質疑応答中の様子



高梁市学校連携コーディネーター  
横山 弘毅さん

## 【県立林野高校】地域講師と教員による「林高(りんこう)ゼミ」がスタートしました

林野高校は、毎週月・水・金曜日に1年生全員が自分の興味・関心に合わせて講座を選ぶ「林高ゼミ」が行われています。地域で活躍する方々にも講師として参加していただいています。



苔のテラリウム制作中



リアル人生すごろくを体験中



火起こし体験後にマシュマロ焼きに挑戦

## 【県立備前緑陽高校】

### 地域の多様な方々とコラボした「びぜんみらい学」の発表会を開催しました

備前緑陽高校では自分で選んだゼミに所属し、地域の多様な方々とコラボしながら継続的な活動に取り組んでいます。7月15日、3年生が取り組んできた活動の発表会「探求活動発表会」を行いました。



発表会の様子



カキ殻を使ったルアー



魅力を楽しく学ぶ備前市かるた

# 随想



## 野球から学んだこと

うえだ  
植田

ひろやす  
浩康



小学校5年生から大学生までの12年間、取り憑かれたように野球にのめり込んだ。この経験は、今の私にとって大きな礎となっている。野球から得たものと言えば、チームワークの尊さや失敗から学ぶ姿勢などが浮かぶ。もちろんそれらも大切だが、教師となった私に最も強い影響を与えたのは「本気の大人の姿」だった。学生時代、グラウンドで魂を込めて向き合ってくれた指導者や、陰で支えてくれた大人たちの姿は、今も心に深く残っている。多感な時期の

私たち一人ひとりに本気でぶつかり、「変われるんだ、変えてやるぞ」という熱意を真正面から伝えてくれた。今思えば、それは並大抵のことではない。絶対的な正解がないと言われる教育現場で、昨日と同じ方法が通用せず悩むこともある。しかし、そんな世界だからこそ、かつて間近で感じた「大人の本気」が、今の自分にとっての羅針盤となっている。日々変わっていく子どもたちの姿に触れる中で、新しい自分との出会いがある。これは本気で向き

合っているからこそ開かれる世界だと感じている。中途半端な姿勢では、新しい扉は開かない。かつて野球にすべてを捧げ、苦労や悔しさを積み重ねた経験があるからこそ、私は今、目の前の仕事に本気で向き合っている。

大層な授業ができるわけでもない。何か特別なことができるわけでもない自分が、子どもに教えられることは少ないかもしれない。それでも、「本気の姿勢」を見せることはできる。かつて自分が大人から学んだ「本気」を、今度は私が担任する子どもたちに伝えた

い。その思いが伝われば、子どもたちが新しい世界を見つけるきっかけになるはずだ。

目の前にいる子どもは、自分を映す鏡のような存在。一生懸命取り組み姿も、少し手を抜く姿も、全てが子どもたちに伝わる。正解がわからない時代を生きていく子どもたちに、私が見せられるのは本気の姿だけだ。この財産をこれからも多くの子どもたちに伝え、子どもともに成長を喜び合える教師でありたい。

(浅口市立鴨方西小学校 教諭)

## 地図の上でつながる旅

おおつか  
大塚

りえ  
理恵



どこかに出かけた日、私は家に帰ると必ず地図を開く。最近は、スマホのマップを眺める日も多い。私の地図好きは、祖父の地図好

きから始まっている。98歳まで生きた祖父は、無類の地図好き。47都道府県の地図が棚にずらっと並べられ、旅行に出かけては、大きな地図を机の上に広

げ、「こないだ行ったのはな、○  
○県のここなんじゃ。」と小学生  
だった私や妹に指さしながら話し  
てくれた。途中で飽きてどっかへ  
行ってしまう妹とは違い、私は最  
後まで地図に見入ってしまった。  
た。

何がそんなにおもしろいのか。  
例えば、自分が歩いた場所を地図  
で眺める。すると、その場所での  
記憶が蘇る。「あ、この角の店で  
ご飯食べたな。」「ここで見た川、  
きれいだったなあ。」と自分が覚  
えている感覚が地図の上に戻って  
くる。そのうち、自分が見られな  
かった場所の地図に目がとまる。  
「この先は、どうなっていたのか  
なあ。」地図の道をたどり、路地  
を曲がり、時には線路に沿って、  
電車にも乗ってしまう。もうここ  
までくると、ただの妄想の世界だ。  
自分が立っていた場所から、一歩  
も進んだことのない場所へ想像が  
広がっていくスリルとワクワク感  
でたまらなくなる。自分の見た確  
かな記憶と、見られなかった景色  
の想像がガチっとつながる感覚。  
きつとこの感覚がたまらなくて、  
私は地図ばかりを眺めてしまうの  
かもしれない。

祖父が昔、地図をいつも眺めて  
いたのは、行った場所の確認だけ  
ではなく、きつとこんな「まだ見  
たことのない景色へのワクワク」  
を楽しんでいたのかもしれない。

## 今を大切に

おおさか  
大坂

けいすけ  
敬介



今年の夏はどこへ行こう。地図を  
眺める旅が楽しみだ。  
(井原市立青野小学校 教頭)

令和7年4月より、今の職場に  
転勤した。当然、生徒はいない、  
授業もない、学校行事も何もな  
い。慣れない仕事をする中、もし  
かしたら、この間のクラスが現役  
最後の授業だったのか、あの時の  
クラスが最後の担任だったのか、  
と色々と考えてしまうこともあっ  
た。

もう数年前のことになるが、以  
前勤めていた中学校で、卒業する  
子どもへ向けた保護者からのメッ  
セージ文集を発行した年があっ  
た。最後のページに編集に携わっ  
た保護者の編集後記があったが、

その中で、今でも忘れられない言  
葉がある。

「その時とは気がつかずに訪れ  
ていた子どもとの最後の時。ご飯  
を食べさせてあげた最後。髪の毛  
を洗ってあげた最後。・・・絶対  
に忘れなくなかったのに、それが  
いつだったのかももう思い出せない  
のです。」

初めて寝返りをした日、初め  
て「お父さん」と言ってくれた  
日、初めてランドセルを背負った  
日、初めての日はビデオや写真を  
撮ったり、お祝いをしたり、記念  
日になったり、記憶や記録に残っ

ているのに、成長に伴って、親の  
手を離れていった日はいつだった  
か、私もはつきり覚えていない。  
親としては子どもの成長は嬉しい  
はずなのに、何だか寂しい気持ち  
も混ざっている。子どもに直接愛  
情を伝えられる時間は限られてい  
る。保護者からのメッセージを読  
んで、改めて今という時間の大切  
さを感じることができた。

子育てだけでなく、仕事につい  
ても同じことを感じた。直接、子  
どもと接する仕事ではなくなった  
が、教科指導のことを若手の先生  
に伝えたり、市内のICT機器を  
整備したり、先生方が気持ちよく  
仕事ができるよう環境を整えるの  
も大事な仕事である。一つ一つの  
仕事に意味があり、先生方が生き  
生きと仕事ができるようサポート  
することが、児童・生徒の幸せに  
つながっている。

気づけばまだまだ続くと思っ  
ていた教員人生も折り返し、終わ  
りが見えてきた。振り返った時にあ  
の時もつとこうしておけば良かった、  
と思うことがないよう、今を  
大切にしたい。

(赤磐市教育委員会 副参事)

## 新たな学校へ

倉敷市立連島南中学校

2年 宮田 彩衣

私の通う連島南中学校は周りを蓮根田に囲まれて、地域との結びつきが強い学校である。特に、地域の人と生徒が直接関われる特別な行事として「ふれあい体験学習」が行われている。神輿を担いで地域に出向く体験や地元の特産品をふんだんに使用した鶴新田焼きそば作りなど、地域の人たちと生徒が一体となつて毎年活動が行われている。また、生徒全員が元氣よく、メリハリがあるとところも私たちの学校の魅力だ。体育会や合唱コンクールなどの行事には、明るく元氣に多くの生徒が取り組み、授業になれば先生の話を静かに聞く様子が見られる。

そんな連島南中学校では最近、長年愛されてきた制服が大きく変化することとなった。新制服導入時に生徒会が中心となつてボタンデザインコンテストが行われ、生徒の意見を取り入れながら新たに愛されていくであろう制服が誕生した。また新制服の導入に伴い校則についても生徒会が中心となり、服装や頭髪などが見直された。その他にも本校は生徒会活動

を活発に行っている。例えば、警察とのコラボ商品の開発などを行った。生徒会と警察が協力して非行防止標語を作り、小学校に出向いて説明をしたり中学校でも標語を示したりしながら、筆記用具などを渡す活動をするなど、新たな取り組みに力を入れている。

このように連島南中学校はこれまでの歴史と伝統を大切にしながらどんどん新しいことに挑戦し、誰もが過ごしやすい学校に進化していつていく。これからも新たな学校づくりを積極的に自分たちの手で行い、これらの新たな学校のページを開いていきたいと思う。



## 涙を糧に

創志学園高等学校

3年 白金 里桜

私は、柔道競技の中でさまざまな涙を流してきました。勝利をつかんだ喜びの涙、目標に届かなかった悔し涙、監督や家族、仲間たちと流した涙。その一つ一つに、積み重ねてきた努力や思いが詰まっています。高校1年の夏、私は初めて高校の全国大会に出場しました。結果は3位。自分の力を十分に出し切れなかったことで、私の中には悔しさが残りました。あのとき流した涙には悔しさと同時に「次こそは」という決意も込められていました。5月に佐野監督から「世界大会の代表に選考されたぞ」と言っていたいただきました。その言葉を聞き、今までの努力が認められたようで、とても嬉しく思いました。それから全国大会、世界大会と、それぞれの目標に向かって努力を重ねました。8月の全国大会では二回戦敗退でした。負けて悔しいというより自分自身の柔道のあり方について考えさせられました。負けて1週間後には世界大会。すぐに気持ちを切り替えさせました。迎えた世界大会。何もブレッシャーはなく、挑むことができました。結果は1位。やっぱりやってきたことは無駄じゃなかったんだとこの大会で証明することができました。数々の試合を経験する中で、私は「勝つこと」以上に大切なものに気づきました。それは、結果に向き合い続けること、そしてどんな状況でも自分の柔道を貫くことです。嬉し涙も悔し涙も、そのすべてが私を強くしてくれました。これから私は、柔道を通して学んだことを胸に、一つの試合に全力で向き合っていきたいと思います。

# 私の工夫

## ICTツール及びAI音声入力を活用した1年国語科における紹介文指導の工夫

岡山市立平井小学校

指導教諭 戸川 有紀



### 1 はじめに

小学校第1学年における国語科の指導において、児童が自身の経験や観察した事象を他者に伝える作文・文章指導は、言語能力の基礎を培う上でとても重要な位置を占める。しかしながら、1年生の9月頃における児童にとっては、伝えたい事象を他者が読んで十分に理解できる「紹介文」へと構成・記述するまでにより越えなくてはならない、いくつものハードルがある。

そこで本実践では、単元「はっけんしたよ」（新編あたらしいこくご一下・東京書籍）を対象としたICTツール「ミライシード（ベネッセ）」内の「オクリンクプ

ラス」及び、自作の「AI音声入力アプリ」を中核とした指導の工夫を行った。これにより、断片的なメモを文字表記への抵抗感を減らしながら他者を意識した分かりやすい紹介文へと発展し、確かな文章を書く力につなぐための授業実践を行った。

### 2 単元の目標と児童の実態

本単元では、「身の回りの事象から発見したことを、相手によく伝わるように紹介文に書くこと」を主たる目標とした。指導にあたっては、ただ文章を書かせるだけでなく、目的意識を明確にもてるよう『6年生に読んでもらう』という具体的な相手を設定した。こ

れにより、児童の中に「このままのメモで本当に6年生に伝わるのだろうか」という必要感と、より良く書きたいという学習意欲をもたせることを目指した。

児童の実態としては、「くを見つけた」といった気付きをカードやメモに記録することは意欲的に見えるものの、いざ紹介文として清書する段階になると、「何をどの順番で書けばよいか分からない」といった文章づくり上の課題に加え、「文字表記の不熟さ」という大きな壁が存在していた。言葉を書き記述する際に「先生、〇〇ってどうやって書くの?」といった表記の確認を求める質問が頻発する。しかし、聞きたいときにいつでも教師が対応できるわけではなく、その間に児童の思考が中断したり、意欲が減退して文章が短くなってしまう傾向が見られた。したがって、書きたい表現の正しい表記を「思いついた時にその場で、児童が主体的に確かめられる支援」が不可欠であった。

### 3 ICTを活用した指導の工夫と実践

本時においては、デジタルツールの特性を組み合わせた次の3つの工夫を軸に展開した。

（1）「メモカード」「おたすけグッズカード」「AI音声入力アプリ」による表記確認の自立化支援

授業開始前に、あらかじめ児童の端末へオクリンクプラスを用いて「メモカード」と「おたすけグッズページ」を配信した。「メモカード」は、「はじめ」「なか」「おわり」に合わせた3種類のカードで、清書する際にはそれぞれのカードごとに段落分けをして書くことと良いことに気づきやすかった。また、「おたすけグッズカード」には、教科書のお手本作文や、文章構成のルール（1マス下げる、日付の書き方など）を掲載し、教科書を開かなくてもすぐに確認できるようにした。

さらに、表記の仕方に迷い、記述が停滞してしまう児童の支援として、自作の「AI音声入力アプリ」の活用を取り入れた。このア

プリは、声で文章を入力することにより全てひらがなで表示され、1年生が特につまずきやすい助詞（接続語の「は」や「を」など）も文脈に応じて正しく変換・表示させることが可能である。このことにより、従来の「質問をするために教師が机間指導に回ってくる



メモカード



おたすけグッズカード

のを待つ時間」を解消することができ、児童が「書きたい」と思いついた瞬間に端末のアプリを開き、言葉を発音して正しい表記を自ら確かめられるようにした。児童は表記の不安から解放され、言葉を主體的に選定しやすくなった。もちろん、このアプリだけに頼るのではなく、毎授業の初めの5分間を使って文法に関する練習問題にも取り組ませ、作文を行う上で自分の課題に気づくことができるようにした。

### こえのにゅうりよくあぶり

もじおこしがかりようしました。

うんどうじょうでしやうりようばったをみました

かいし ていし くりあ

AI音声入力アプリ

(2) あえて「間違い」を提示する  
 演示とAI音声入力アプリの  
 特性理解  
 発見メモから文章にしていく最

初の時間には、教師の演示を行った。そのときに教師は「わたしわ、」とあえて助詞を間違えて板書した。同時に、AI音声入力  
 で正確に表示された「わたしは、」と対比させることで、児童に「あ、そこが違う!」「アプリで喋ると正しい『は』が出るんだ」と気付かせた。この一連の演示を通じ、自分自身の力でメモを紹介文へと発展させる際の見通しをもたせることができた。

### (3) 「みんなのボード」による双方向の交流

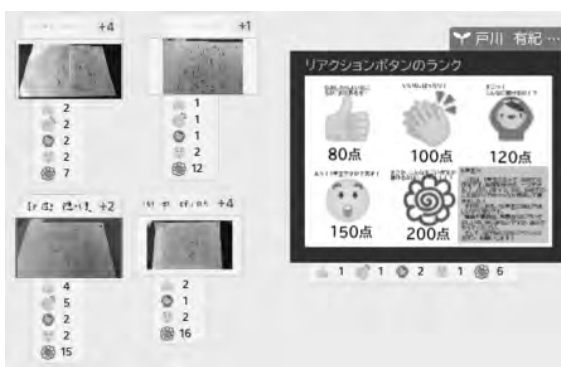
清書を書き進められた児童からタブレット端末で自身の紹介文を写真撮影し、オクリンクプラスの「みんなのボード（共有スペース）」へ随時アップロードさせた。これにより、まだ書き悩んでいる児童へのヒントとなるだけでなく、早く終わった児童が友達の表現を参考にして「さらに気づいたことを書き加える」姿も見られた。

## 4 まとめとおわり

本実践を通して、1年生であつ

ても「はじめ・中・終わりに分けて、気づいたことをたくさん書くと、相手にとって分かりやすくなる」という文章づくりの本質を、実感をもって理解することができた。

また、「6年生に読んでもらおう」という投げかけは、児童にとつての良い学習動機となり、文章を書くことの楽しさへと繋がった。今後も、ICTやAIツールの利点を生かした効果的な学習を工夫し、児童一人ひとりが「相手に伝える喜び」を感じながら、確かな表現力を身につけていけるよう、授業改善と実践を積み重ねていきたい。



6年生がくれたいいねボタン

# 私の工夫

## 居心地のよいクラスにするために 生徒との人間関係の築き方

前 倉敷市立多津美中学校 教諭  
現 倉敷市教育委員会学事課  
学事主任 星尾 大樹



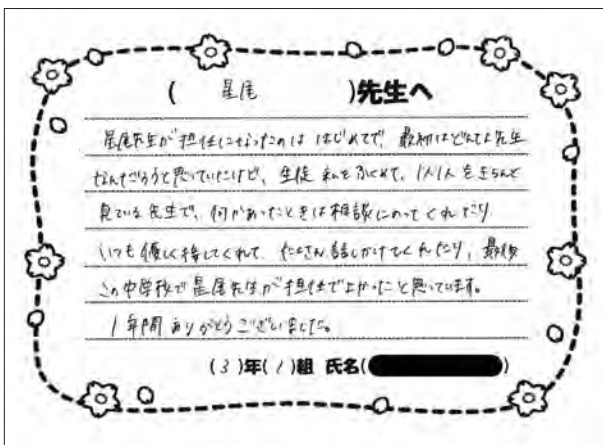
### 1 はじめに

私が初任者だった頃、ある先生から2つのことを教わった。それは、「生徒との人間関係を大切にすること」「時間を守ること」だった。以後、私はその2点を常に意識しながら学級経営や授業を行ってきた。今回は、私が学級経営で実践してきた5つの実践内容について紹介する。

### 2 実践内容

#### (1) 自己開示をする

私が公立中学校で初めて担任をもったのは25歳の時だった。(最初の3年間は特別支援学校勤務)当時の私は、若かったこともあり、生徒の前で自分を出すことにためらいがあり、生徒と人間関係を築



くことに苦勞していた。

そんな私に転機が訪れたのは、30代になって子どもが生まれてからだ。家庭内での出来事や子どもとのエピソードを朝の会や帰りの会で時間が余った時に紹介するよ

#### (2) 自分から生徒に声をかける

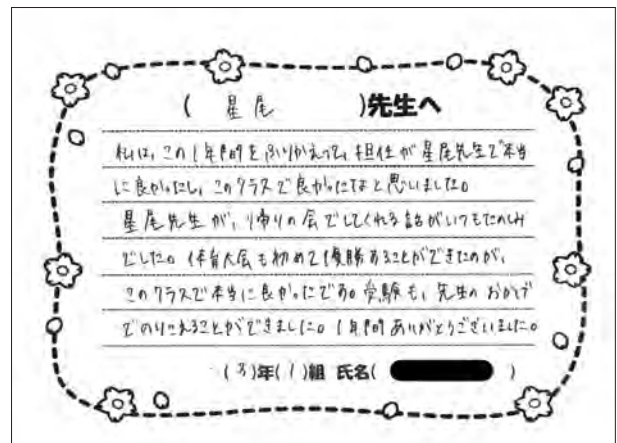
うになった。普段の自分を知ってもらうことで、生徒が私に興味をもつようになり、生徒とのコミュニケーションがスムーズにとれるようになった。手応えを感じた私は、自分の身の周りで起こった出来事をメモに残しておき、時と場合に応じて学級で話することにした。自己開示をすることで生徒との距離が縮まり、充実した日々を過ごせるようになった。また、懇談等の場面で保護者と話をする際にも、学級で話をした話題で盛り上がることであり、保護者との関係も深めることができた。

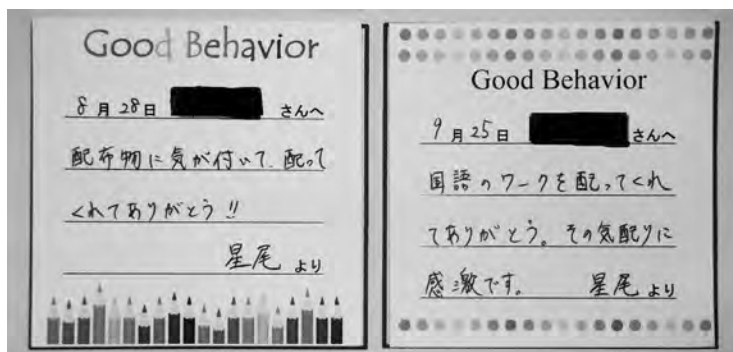
私は、2日間で学級の生徒全員に自分から声をかけることを意識している。本来は、毎日全生徒に声をかけたいが、35人学級を担任し、日々の授業や生徒指導に追われると、どうしても毎日全員に声をかけることが難しくなってしまうことがあるため、2日間で実践するようにしている。声をかける内容は、主に「デイリーライフ(生活ノート)」の日記に関する内容や、感謝を伝える場合が多い。3月の学級解散時に受け取る生徒からの手紙を読んでいると、コミュニケーション

#### (3) 「ありがとう」を伝える

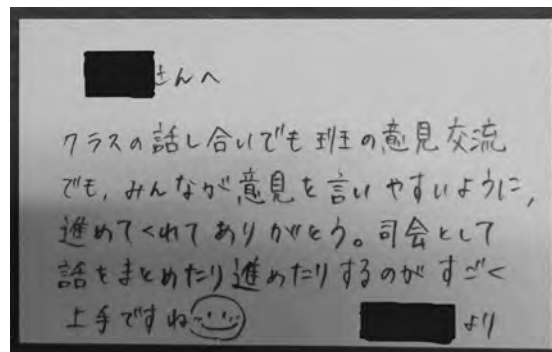
ーシヨンの重要性に気付かされる。日々の小さな努力の積み重ねが、生徒との円滑な人間関係構築に繋がっていると私は信じている。

自分から声をかける場合に特に意識しているのは、「ありがとう」を率先して伝えることだ。生徒は日々、係活動や当番活動に取り組み、中には級友や教師の手伝いに率先して取り組む生徒もいる。そのため、よく生徒を観察していると、自然と「ありがとう」を伝える場面に多く遭遇する。タイムニングよく「ありがとう」を伝





教師から生徒へのGood Behaviorカード



生徒間でのGood Behaviorカード

えられると、生徒との人間関係がより深まり、自己有用感も高まる。Good Behavior カードを利用するのもよい手立てだ。勤務校では学校を上げて取り組んでおり、教師と生徒間だけでなく、生徒間でのやり取りも組み合わせたことで、学級の雰囲気は更によくなったと感じた。

#### (4) 「学級全員」を意識させる

私は、学校行事で「学級全員」を意識させるようにしている。体育大会を例に挙げると、学年優勝を目指すことは当然だが、学年種目（学級全員で競技する種目）に特に力を注ぐようにしている。毎回優勝できるわけではないが、学級全員で一つの目標に向かってベストを尽くす経験は、その後の学級経営に必ずプラスに働くからだ。また、3年生を担任した際には、高校入試でも「学級全員」を意識させる。一般入試受験者以外は、2月中に入試を終えることになるが、私は3月に実施される一般入試が終わるまで、「学級全員で受験を乗り切ろう」と何度も語りかける。令和7年度に3年生を担任した際には、「元氣玉大作戦」と名付けて、一般入試受験者にみ

んなでパワーを送ろうと語りかけた。自分のことだけでなく、周りに目を向けられる生徒を育てることも、居心地のよい学級を作る上で大切になると感じているからだ。



体育大会で学年優勝と学級旗最優秀賞獲得

#### (5) 時間を守る

教師は生徒に「〇分前行動」「チャイム着席」など時間を意識させる声かけや取組を行うことがあるが、我々教師は、時間を守って行動できているだろうか？私が特に意識しているのは「チャイムで終わる」だ。朝の会や帰りの会、授業をとにかく「チャイムで終わる」ことを意識している。休み時

間は生徒の権利である。特別な事情がない限り、教師も時間を守ることが大切だ。「チャイムで終わる」ためには、朝の会や帰りの会で何をどのような順序で伝えるのか、1時間の授業で何をどこまで学習するのかといった事前の準備が必要になる。また、伝えたい内容を絞り、簡潔に伝える努力も必要だ。こういった努力を継続することも、生徒から信頼される教師であるために重要である。

### 3 おわりに

今回紹介した内容は、生徒と円滑な人間関係を築き、学級を温かく居心地のよい空間にするために、私自身が必要だと感じ、実践してきたことである。誰でもいつからでも取り組める内容であり、特別難しいことに取り組んできたわけではない。

生徒との人間関係は日常の繰り返しの中で築かれる。大切なのは、生徒と円滑な人間関係を築く上で、自分が大切だと感じたことを信じて継続することである。これから、紹介した5つの実践を生徒の実態に合わせて継続し、充実した日々を過ごしていきたい。

# 私の工夫

トライ&エラーで思いを実現！  
『知的障害特別支援学校で取り組むプログラミング教育』

前 県立誕生寺支援学校 教諭  
現 県立邑久高等学校 教諭

谷藤 隆行



## 1 はじめに

現行の特別支援学校学習指導要領において、プログラミング教育の実施について示され、各学校で児童生徒の実態に即して実施していくこととなっている。そのような中で、コロナ禍に入り、児童生徒の学習保障のために1人1台端末の配布が一気に進んだことにより、ICT機器と学習活動の距離が縮まり、プログラミング教育についてもこの環境を生かしていくことが求められる。

私は、昨年度まで特別支援学校の中学部で勤務していた。ここでは、私が前任校で知的障害のある中学部の生徒に行ったプログラミング教育の実践について紹介をする。

## 2 実践の紹介

### (1) 美術科「デジタルアートで水族館をつくらう」

この学習では、ビジュアルプログラミング言語「ビスケット」(合同会社 デジタルポケット)を使用した。「ビスケット」は操作画面上にあるメガネに描いたイラスト等を入れ、その位置を調整することによって、アニメーションを簡単に作ることができるツールである。

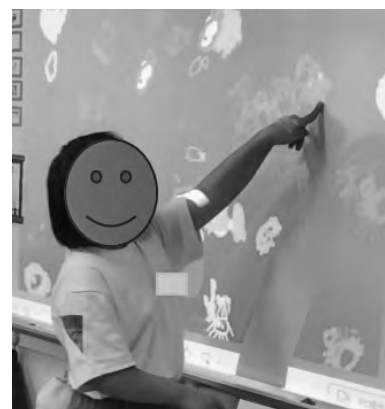
この学習では、生徒それぞれが好きな海の生き物を描き、それをプログラムして泳がせる。そして、全員の作品を一つの画面に集めることで水族館ができあがるというものである。生徒はイラストを参考にしながら、細長い魚、丸い魚、

カラフルな魚、海藻等、思い思いに海の生き物を表現していた。そして、イメージしている動きを実現するため、メガネにイラストを入れ、位置関係を調整しながら動きを表現していく。生徒は、「位置を調整してイラストをメガネに入れる」「動きを見る(確認する)」「イラストの位置を再調整する」を繰り返して、イメージ通りの動きを実現するために粘り強く取り組むことができていた。



海の生物を描いて、動きをプログラム

活動の振り返りとして、生徒が描いて、動きをつけた海の生き物を全て一つの画面に映し出して鑑



プログラムした海の生き物を紹介

賞会を行った。画面に映った海の生き物を見て生徒は「わあ!」「すごい!」と歓声を上げていた。自分が描いた海の生き物を紹介する発表では、どの生徒も画面上を動いている作品を指差し、誇らしそうに発表する姿が印象的であった。ある生徒は、手で自分が描いた魚の動き方を表現しながら「こうやるのを頑張りました」と発表し、動きをプログラムする際に手で何度も動きを表現して、試行錯誤しながら取り組んだ様子と実現できた達成感が発表からあふれていた。

### (2) 数学科「前後左右の理解」

次にTrueTrue(ケニス株式会社)というプログラミングロボットを使用した実践を紹介する。TrueTrueはカードやタブレット端



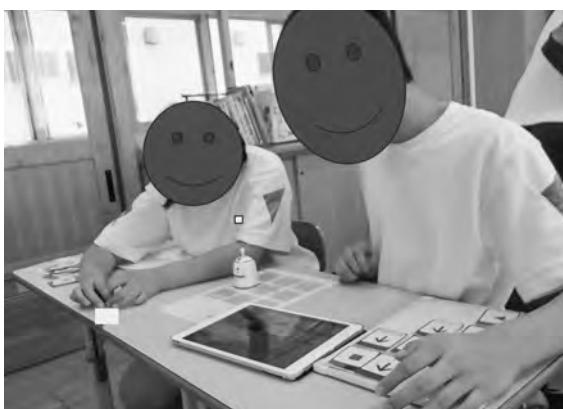
考えをボードに可視化してから実行

末を使って進む方向や距離をプログラムすることが出来るツールである。

この学習では、「ゴールまでの道筋をプログラムする活動」を行い、生徒が「進む方向（前後左右）や進む距離を正しく表現できるようにすること」をねらいとした。

最初にロボットに親しみをもつて取り組めるように生徒全員で名前を付ける活動を行った。話し合った結果「ロボット」という名前になった。シンプルな名前の中に生徒の操縦する（動かす）ことへの期待が伺えた。

ロボットを動かす活動に入ると



TrueTrue の動きを見て結果を確認

生徒はゴールへ進ませるためのカードを選び、順番を考え、「これでどうだ!」とロボットをスタートさせていた。ロボットが進み始めると、そのゆつくりとした動きを食い入るように見つめ、ゴールまでいくとニコッと笑顔がはじけた。うまくいかないときに並べたカードを見直し、新たなプログラムを作って再び挑戦していた。間違いや失敗、負けることを受け入れることが普段は難しい生徒も、この活動ではゴールに行かなくても怒ることなく、最後まで穏やかに夢中になって取り組むことができていた。

この活動の中で多くの生徒が前後左右の理解が進み、生活に生かすことができた。

### 3 実施にあたって工夫した点

#### (1) ツールの操作方法を理解する時間をとる

教科の内容で扱う前に操作方法を確認し、生徒が自由に動きを試すことができる時間をとるようにした。それにより、課題解決に思考を向けることができた。

#### (2) 思考の可視化

ビスケットでは表現したい動き方、TrueTrue では動線を、計画書やコース図に記すようにした。また、TrueTrue で考えたプログラムをホワイトボード上にカードを並べて可視化するようにした。それにより、思考を見直すことができ、結果が思うようにいかなかった時に最初からプログラムを「作り直す」のではなく、前回のプログラムをのうまくなかった部分を探して「改善する」ことができた。

#### (3) 結果が出たときのリアクションを教師はとらない

結果が出たときに生徒自身がその結果を認識することで、うまくいかなかったときに「どこが違うのだろうか?」「次こそゴールへ」と考え、直したプログラムにも意図が含まれる。そのため、結果が出たときに教師のリアクションでプログラムの正否を判断することがないように、結果が出たときに教師はリアクションをとらないようにした。

#### 4 おわりに

前述の実践等のプログラミングを活動に取り入れた授業では、共通して生徒たちがトライ＆エラーを繰り返しながら粘り強く取り組み姿が見られた。これらの実践を通してプログラミング教育の授業では、教え込むことよりも思考を促すことの大切さを強く感じた。まだまだ行ってきた実践の種類が少ないため、今後さらに生徒が夢中になって取り組めるツールの選定や授業づくりを行い、実践を重ねていきたい。

# 県内の登録博物館を訪れてみませんか



登録博物館の教育プログラムを紹介します。  
校外学習等を検討している先生、ぜひ御活用ください！

ココが  
ポイント！

～107歳まで生きた彫刻家を知ろう～



**井原市立平櫛田中美術館** (井原市井原町315)

「展示解説」所要時間 約30分～45分

平櫛田中（明治5年生～昭和54年没）は井原市出身で文化勲章を受章した木彫家です。86歳で完成した大作「鏡獅子」や息子を彫った「幼児狗張子」、書「いまやらねばいつできるわしがやらねばたれがやる」は有名です。

小学生向けに、作品をより深く知るためのクイズを作っています。職員による展示解説を聞きながら、一緒に解いてみましょう。

★学校教育でのご利用の際は、  
引率の先生を含めてすべて  
無料となります。

鑑賞の後は、隣接する公園「田  
中苑」の散策をお楽しみくだ  
さい。東京・北の丸公園を設計し  
た造園家伊藤邦衛が手掛けた名  
園です。



田中苑



お問合せ

0866-62-8787



【開館時間】

9時00分～17時00分  
(入館は16時30分まで)

【休館日】

月曜日（祝日または振替休日の場合  
はその翌日）  
年末年始、展示替え期間

ココが  
ポイント！

～地域の芸術作品に慣れ親しむ！～



**やかげ郷土美術館** (矢掛町矢掛3118-1)

「対話型鑑賞会」・「学芸員出前授業」

所要時間 約1時間

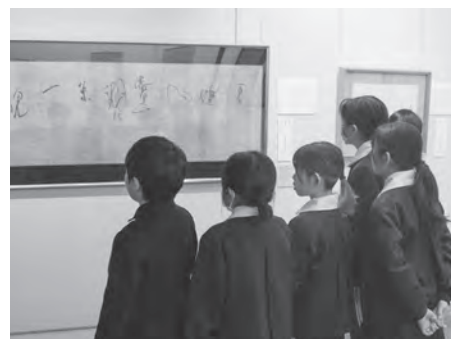
美術館小学校連携事業「やかげっ子おしゃべり美術館」として、「対話型鑑賞」と「学芸員出前授業」を町内小学校向けに開催しています。他校との合同グループで収蔵作品を鑑賞し、気づいたことや感想を自由に発言する対話型鑑賞と、学芸員が各小学校の教室に出向き、美術館に関するクイズや、作品上の人物の会話を想像したり、簡単なワークショップを行ったりするなど、児童が楽しみながら取り組めるプログラムを行なっています。この経験を通して、次世代を担う子どもたちが、美術館や地域の芸術作品に慣れ親しむ機会となるよう取り組んでいます。

矢掛町以外の小学校からのご依頼につきましては、ご相談ください。



やかげ郷土美術館

やかげ郷土美術館で美術鑑賞後は、国  
指定重要文化財「旧矢掛本陣石井家住宅」  
のご見学はいかがでしょう。江戸  
時代の面影を残す歴史と文化をご堪能  
いただけます。



お問合せ

0866-82-2110



【開館時間】

9時00分～17時00分  
(入館は16時30分まで)

【休館日】

月曜日（祝日の場合はその翌平日）  
年末年始（12月28日～1月4日）  
展示替え期間

## ～登録博物館～

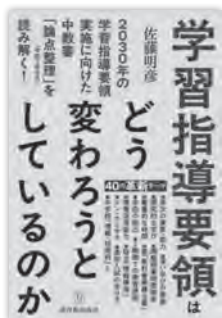
登録博物館は、これまでの資料収集や保存、展示、教育といった博物館機能の活用に加え、地域の多様な主体と連携し、まちづくり、観光、福祉等の課題に向き合い、地域の活力向上に寄与することが求められるようになりました。

# 岡山県立図書館 教育関係図書紹介

教育関係の新着図書からピックアップしてご紹介します

## 学習指導要領は どう変わろうとしているのか

佐藤 明彦／著 東洋館出版  
2025.12 請求記号：372.107/外26/ ISBN：9784491059839



学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会「論点整理」を、「調整授業時数制度」「裁量的な時間」等のキーワード毎に読み解いた一冊です。今から取り組みたいことや、教員に求められる資質・能力等についても論じられています。

## 学校のメンタルヘルス 子ども、教師をどう支えるか

伊藤 美奈子／著 岩波書店  
2026.3 請求記号：371.43/外26/ ISBN：9784004321057



不登校やいじめ、教師のバーンアウトなど、現代の学校が抱える課題から、今後の教育の在り方を論じた一冊です。多角的な視点からメンタルヘルスの重要性を浮き彫りにし、誰もが安心できる学校づくりへの道筋を示しています。

## クラス全員が「聞ける」「話せる」！ ペア活動図鑑100

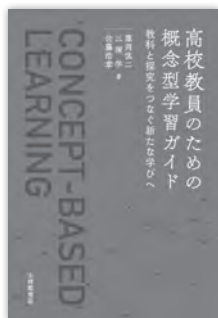
鈴木 優太／著 学陽書房  
2026.3 請求記号：374.12/双26/ ISBN：9784313655591



コミュニケーションの基本となる1対1の活動を通して成功体験を積み重ね、誰もが「聞き手」「話し手」になることを目指した一冊です。アイスブレイクはもちろん、教科学習にも活かせる多様なアイデアが詰まっています。

## 高校教員のための概念型学習ガイド 教科と探究をつなぐ新たな学びへ

藤岡 慎二、三浦 学／著 東洋館出版社  
2026.3 請求記号：375.1/ワ26 ISBN：9784469291223



教科の学力とのかつがり、授業時数の圧迫といった探究学習の諸課題への解決策として、概念型探究学習を提案しています。生徒自身が興味・関心がある概念に基づき立てた問いについて探究学習を行う理論と実践方法が分かります。

## LLブックをすすめる 知的障害・読書に困難がある人たちの豊かな読書環境をめざして

藤澤 和子[ほか]／著 樹村房  
2026.2 請求記号：369.28/ワ26/ ISBN：9784883673957



LLブックとは、障害や社会的環境等により一般の書籍を読むことが難しい人たちに向けて、分かりやすく表現された本を指します。本書ではLLブックの歴史や特徴をはじめ、教科学習や学校図書館での活用事例も紹介されています。

## 学校と境界知能

宮口 幸治、宮口 英樹／編著 東洋館出版社  
2026.3 請求記号：378.8/ミ26/ ISBN：9784491045511



境界知能児・者は人口の約14%、35人学級で考えると約5人が該当するとされています。本書は『ケーキの切れない非行少年たち』の著者らが、境界知能児・者の特性や、学校でできる支援方法について幅広く解説した一冊です。



県立図書館の  
HPをチェック!!

☆ 教育活動支援サービスの詳しい内容や教育新着バックナンバー  
【サービス案内】→【資料の収集・提供・相談サービス】→【教育活動支援サービス】  
☆ ご相談は、社会科学カウンター（社会科学班）までお気軽にどうぞ。  
E-mail：syakai@libnet.pref.okayama.jp TEL：086-224-1317



令和八年度 岡山県立博物館 特別展

# 宇喜多直家と秀家 ライバルとしてのぎを削ったサムライたち

今から約400年前の岡山県内では、激しい戦いが繰り返され、戦国の世を迎えていました。各地に拠点を置いたサムライたちは、集合や離散を繰り返しながらしのぎを削りあいました。その中でも、岡山城を拠点にして備前・美作を治めることになった宇喜多直家、岡山城を整備して豊臣秀吉のもとで活躍した宇喜多秀家親子が、岡山を代表する戦国武将と言えると思います。今年度、岡山県立博物館では、宇喜多直家・秀家親子を中心に、岡山の戦国時代を紹介する特別展を開催します。

## 宇喜多直家以前の宇喜多氏

宇喜多直家の先祖が誰なのか、近年の研究の中でもはっきりとしていません。ただし、「宇喜多」姓のサムライが15世紀後半から邑久郡で活動したのは間違いないように

うです。

1520年代には、宇喜多能家が活躍していました。今回の特別展では、宇喜多能家が使っていた薙刀を展示します。この薙刀は、とても大きなもので、刃に「破軍星」と彫られています。これは、中国の思想で、刃の先にある敵軍は皆滅びるという意味の言葉です。この薙刀をかざし、敵陣に切り込むために宇喜多能家が作らせたのかも知れません。

## 宇喜多直家とライバルたち

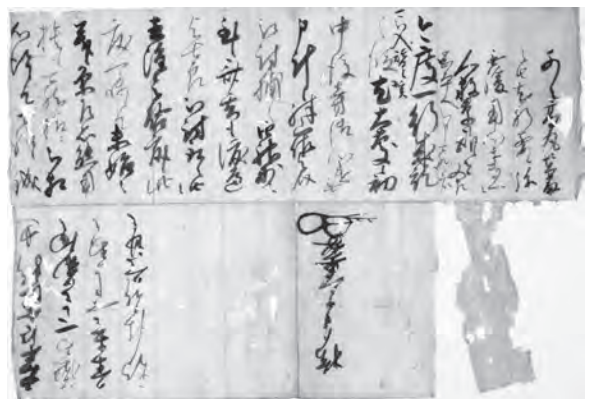
宇喜多直家は、天神山（和気町）

城主浦上宗景の家臣として、活躍してその勢力を広げていきました。宗景の命令を受けて、備前に侵入してくる三村家親や松田氏らと、激しい戦いを繰り返していたようです。

三村家親は、鶴首城（高梁市成羽町）を拠点に活躍した武将で、広島を拠点にしていた毛利元就から高い評価をされていた人でした。宇喜多直家は、三村家親に苦戦を強いられたため、遠藤兄弟を刺客にはなち家親を倒しました。

備前国守護代だった松田氏も滅ぼした直家は、主君の浦上宗景とも対立していきました。1575年には、浦上宗景を和気天神山城から追い出し、備前・美作を勢力下に置くことに成功しました。

直家が領地を治めたちようどその頃、東からは織田氏、西からは毛利氏が迫ってきていました。1578年頃に、宇喜多直家は毛利氏から織田氏へと移り、備前と



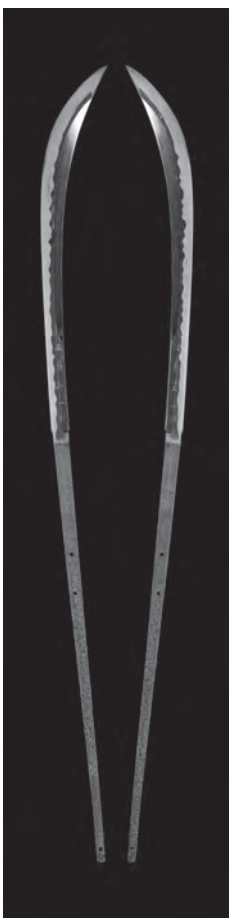
宇喜多直家書状（個人蔵）

備中との間で激しい戦いが続くようになっています。

1580年に宇喜多直家が出した手紙からは、味方になった武将に対して疲れが溜まっていなかったのか心配していることが書かれています。細やかな気遣いができる、直家の知られざる一面かも知れません。

## 宇喜多秀家と豊臣秀吉

宇喜多直家は、1582年1月頃までには亡くなっていたようです。その後は、幼い秀家が跡を継ぎました。1582年2月には宇喜多元家が八浜合戦で戦死してお



薙刀 銘 備前国住長船次郎左衛門尉藤原勝光同与左衛門尉祐定（宇喜多能家注文打・個人蔵）



り、宇喜多氏は、直家、元家というリーダー二名が欠いた中で、備中高松城の戦いに関わることになりました。

羽柴秀吉を主力とした織田軍は、東から備前へ進入しました。4

月からは、清水宗治が立てこもる備中高松城を織田軍が取り囲み、5月中旬からは水攻めを実施しましたが、なかなか城は落ちませんでした。6月4日に和睦が成立し、清水宗治らが自刃して戦いが終わりました。

本能寺の変で亡くなった織田信長の弔い合戦となった山崎の戦いに、羽柴秀吉は向かいました。その背後を守る宇喜多氏は、8月になると秀家が八塔寺等の神社に対して制札を出しています。天下を手に入れようとする羽柴秀吉のもとに、宇喜多氏は協力を続け、紀州や九州、四国へと出兵を続けました。秀家は、秀吉の後見をうけながら、岡山城の整備や領国の経営に当たりました。

## 関ヶ原合戦の後の宇喜多氏

秀吉のもとで、五大老へと選ば



黒漆塗桐紋時絵鉄五枚胴具足  
(伝宇喜多秀家所用・個人蔵)



色々威二枚胴具足  
(本多政重所用・加賀本多博物館蔵)

れた秀家。朝鮮への出兵では、現地の司令官を務める等、豊臣政権の中での活躍は目覚ましいものでした。ただ、秀吉が亡くなった後は、不安定になる政権内部で厳しい場面に向きあうようになりました。

家臣団が分裂する等の危機を経て、1600年に起きた関ヶ原の戦いに臨みました。去っていった家臣もいる一方で、直前に家臣になった本多政重もいました。関ヶ原での戦闘では、東軍を押し戻すなどの奮戦をしましたが、西軍は敗れ、秀家も追手を逃れながら最

終的には島津氏のもとへ逃げました。

この度の特別展では、秀家が所用していたとされる甲冑と、本多政重所用の甲冑を展示します。

戦国の世を、戦い抜いたサムライたちゆかりの品々を、この機会に是非御覧いただきたいと思ひます。

■会期 令和8年9月18日(金)

～11月23日(月・祝)

■開館時間

(9月末まで) 午前9時

～午後6時

(10月から) 午前9時半

～午後5時

■入館料

大人460円

65歳以上230円

(高校生以下無料)

■休館日

9月24日(木)、28日(月)、

10月5日(月)、13日(火)、

19日(月)、26日(月)、11月

2日(月)、9日(月)、16日(月)

## 関連行事

1 記念講演会

●日時 10月4日(日)

午後1時30分～3時

●講師

本多俊彦氏

(金沢学院大学 教授)

●演題 「本多政重から見た 宇喜多氏」

●場所 県立博物館 講堂

●定員 120名(先着順)

※事前申込必要・聴講無料

2 映像×コンサート

「戦国未来協奏曲

宇喜多秀家によせて」

●日時 10月18日(日)

午前11時～、午後2時～

●場所 県立博物館 講堂

●演奏者 薮井佑介氏(五次元キ

ーボード&最先端電子

楽器パフォーマー)

●定員 各回80名(先着順)

※事前申込必要・参加無料

3 甲冑着付け体験

●日時 9月26日(土)、10月31日(土)

いずれも午後1時～3時

●場所 県立博物館2階ホール

4 学芸員による展示解説

●日時 9月19日(土)

10月3日(土)、24日(土)

11月7日(土)、21日(土)

いずれも午後2時～3時

3、4は体験及び聴講無料、入館料は必要。



## 〈義務教育課関係〉

| 学 校 名 等                                                                                                                                       | 事 業 名 等                   | 指定機関 | 指定年度    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|------|---------|
| 真庭市立蒜山中学校<br>真庭市立北房中学校<br>真庭市立湯原中学校                                                                                                           | 教科指導支援事業（小規模校連携モデル研究）     | 県    | R6 ～ R8 |
| 笠岡市立新吉中学校<br>笠岡市立大島中学校<br>笠岡市・矢掛町中学校組合立小北中学校<br>和気町立佐伯中学校<br>和気町立和気中学校                                                                        |                           |      | R8      |
|                                                                                                                                               |                           |      | R7 ～ R8 |
| 津山市立佐良山小学校<br>津山市立林田小学校<br>津山市立院庄小学校<br>津山市立高倉小学校<br>笠岡市立中央小学校<br>笠岡市立笠岡東中学校<br>笠岡市立神内小学校<br>高梁市立落合小学校<br>高梁市立高梁小学校<br>新見市立思誠小学校<br>新見市立西方小学校 | 教科指導支援事業（小学校算数指導力向上モデル研究） | 県    | R8      |
| 勝央町立勝央北小学校                                                                                                                                    | 多層的支援システム構築事業             | 県    | R6 ～ R8 |
| 玉野市立田井小学校<br>美作市立江見小学校<br>鏡野町立鶴喜小学校                                                                                                           |                           |      | R8      |
| 真庭市立勝山中学校<br>早島町立早島中学校<br>奈義町立奈義中学校                                                                                                           |                           |      | R7 ～ R8 |
| 高梁市立高梁北中学校<br>備前市立吉永小学校                                                                                                                       | 道徳教育研究協議会                 | 県    | R8      |
| 笠岡市立北川小学校区<br>美咲町立柵原学園区                                                                                                                       | 夢への原動力構築事業                | 県    | R7 ～ R8 |
| 久米南町                                                                                                                                          | コミュニティ・スクール伴走支援体制構築事業     | 県    | R7 ～ R8 |
| 備前市                                                                                                                                           |                           |      | R8      |
| 倉敷市立郷内中学校<br>井原市立高屋中学校<br>新見市立新見第一中学校<br>瀬戸内市立長船中学校<br>久米南町立久米南中学校<br>県立倉敷天城中学校                                                               | 次世代英語コミュニケーション力向上事業       | 県    | R8      |

## 〈特別支援教育課関係〉

| 学 校 名 等                              | 事 業 名 等                    | 指定機関  | 指定年度    |
|--------------------------------------|----------------------------|-------|---------|
| 県立岡山支援学校<br>県立岡山西支援学校                | 特別支援学校における新しい教育課題研究事業      | 県     | R7 ～ R8 |
| 津山市・笠岡市                              | 幼稚園等における特別支援教育パワーアップ事業     | 県     | R7 ～ R8 |
| 県立備前緑陽高等学校<br>備前市立西鶴山小学校<br>県立東備支援学校 | おかやまインクルーシブな学校運営モデル事業      | 文部科学省 | R7 ～ R8 |
| 県立早島支援学校                             | 高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール） | 文部科学省 | R6 ～ R8 |
| 岡山県健康の森学園支援学校                        | 知的障害教育における生成AI活用研究事業       | 県     | R8 ～ R9 |

## 〈人権教育・生徒指導課関係〉

| 学校（園）名                                                                        | 事 業 名 等                  | 指定機関  | 指定年度     |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------|----------|
| 真庭市立久世こども園<br>備前市立片上小学校<br>浅口市立鴨方中学校<br>県立岡山城東高等学校                            | 人権教育充実拠点校事業              | 県     | R8       |
| 県立津山工業高等学校                                                                    | 子どもの発達を支える生徒指導に関する調査研究事業 | 文部科学省 | R8 ～ R10 |
| 県立津山工業高等学校<br>早島町立早島中学校<br>早島町立早島小学校<br>美咲町立中央中学校<br>美咲町立加美小学校<br>美咲町立美咲中央小学校 | プロジェクト KIZUKI            | 県     | R8 ～ R9  |

## 〈保健体育課関係〉

| 学 校 名 等    | 事 業 名 等                  | 指定機関 | 指定年度 |
|------------|--------------------------|------|------|
| 県立玉野光南高等学校 | 安心安全な部活動推進事業【暑熱対策実践研究事業】 | 県    | R8   |

# 一校1チャレンジで体力向上!!

## ①体力アップ・ マイベストチャレンジ!

小 中 特(小、中)

2種目の合計得点が3点以上で表彰!  
目標達成でバッジ配付



## ②いきいき岡山っ子☆ 運動習慣カード

小 特(小)

ビンゴで楽しく運動習慣化!  
目標達成でバッジ配付



## ③みんなで チャレンジランキング

幼 小 中 高 特

クラスやチームで記録に挑戦!  
上位6チームを表彰



家庭でも  
取り組める

YouTube動画「新体カクエスト」を配信中



Aバッジも配付中

## 令和9年度岡山県立高等支援学校及び岡山県立特別支援学校 高等部本科普通科職業コース入学者選抜について

県立岡山瀬戸高等支援学校、県立倉敷琴浦高等支援学校及び県立倉敷まきび支援学校と県立誕生寺支援学校の高等部本科普通科職業コース（以下「高等支援学校等」という。）は、比較的軽度の知的障害のある生徒が、就労による社会自立を目指す高等部の特別支援学校（コース）です。

高等支援学校等では、次のとおり、来年度の入学者選抜を行います。

### ■出願の条件

高等支援学校等への入学を志願し、出願することのできる者は、学校教育法施行令（昭和28年政令第340号）第22条の3の規定に該当する知的障害者のうち、障害の程度が軽度の者で、次の(1)、(2)及び(3)の全てに該当する者とする。

(1) 次のいずれかの条件を満たす者

ア 中学校、特別支援学校の中学部、義務教育学校又は中等教育学校の前期課程等（以下「中学校等」という。）を卒業又は修了（以下「卒業」という。）した者

イ 令和9年3月に中学校等を卒業する見込みの者

ウ 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第95条の規定に該当する者

(2) 保護者とともに県内に居住する者

(3) 原則として、一人で通学することができ、卒業後、就労による社会自立を目指す者

### ■募集定員

|            |     |                       |     |
|------------|-----|-----------------------|-----|
| 岡山瀬戸高等支援学校 | 40名 | 倉敷まきび支援学校（本科普通科職業コース） | 16名 |
| 倉敷琴浦高等支援学校 | 24名 | 誕生寺支援学校（本科普通科職業コース）   | 8名  |

### ◇入学者選抜の流れ

| 内 容                          | 期 日                             | 場 所                                                     | お問い合わせ                                                          |
|------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 出願前教育相談                      | 実施期間<br>10月19日(月)～<br>10月23日(金) | 志願校<br>岡山瀬戸高等支援学校<br>倉敷琴浦高等支援学校<br>倉敷まきび支援学校<br>誕生寺支援学校 | 岡山瀬戸高等支援学校<br>〒709-0854 岡山市東区瀬戸町江尻1326<br>TEL:086-952-5633      |
| 入学願書受付                       | 11月11日(水)～<br>11月13日(金)※1       |                                                         | 倉敷琴浦高等支援学校<br>〒711-0903 倉敷市児島田の口1-1-16<br>TEL:086-477-9301      |
| 入学者選抜に係る<br>学力検査、作業能<br>力検査等 | 12月4日(金)※2                      |                                                         | 倉敷まきび支援学校<br>〒710-1301 倉敷市真備町箭田4682-1<br>TEL:086-697-1233       |
| 合格者の発表                       | 12月22日(火)                       |                                                         | 誕生寺支援学校（弓削校地）<br>〒709-3612 久米郡久米南町上弓削1657-1<br>TEL:086-728-2828 |

※1 入学願書等は、出願前教育相談の後、志願校から志願者に配付します。

※2 インフルエンザの罹患等やむを得ない理由で検査当日に欠席した者については、追検査を12月18日(金)に実施します。

## 「思いをかたちに」

総社市立秦小学校



「6年間の思い出」

令和7年度6年生

まさ き あや ね  
正 木 彩 愛



「ホワイトタイガー」

令和7年度5年生

あか の あつ と  
赤 野 篤 翔

**短評**  
正木さんの作品は、岡山県児童生徒絵画展で県教育長賞に選ばれました。小学校の6年間、いつでも前向きにがんばってきた彼女の思い出が詰まったランドセルを細部まで描き込み、色鮮やかに表現しました。赤野さんの作品は、一版多色刷り版画に初挑戦したものです。納得いくまで繰り返し色を塗り、粘り強く取り組みました。柄をカラフルに着色し、迫力がありながらもどこか可愛らしい作品となりました。  
(図画工作科担当 藤野 麻未)

# 創作の広場

## 「青春」短歌

津山市立津山東中学校 2年生

大好きよ私の青春ゆずらない  
絶対なりたいあなたの助手席

山本 杏

エースだと期待の中でコート立つ  
一年前より高く跳べる

西尾 晃太郎

もう一度取り戻したい春の日の  
君への思い開くよう願う

須江 巴哉

瞬きをすると同時にシャッターを  
この思い出は数え切れない

松田 奈々花

放課後にくだらないこと言い合って  
笑う間に過ぎていく時間

松岡 十菜

最終期限ギリギリ現在は  
深夜三時に涙の嵐

丸王 陸

**短評**  
2年生の国語の授業で「青春」をテーマに短歌作りに取り組みました。等身大の「青春」が瑞々しく描かれ、それぞれの心の揺らぎが鮮やかに映し出されています。31文字に込められたまっすぐな想い。今この瞬間にしか詠めない、きらめく感性と明日へのエネルギーが伝わればと思います。  
(国語科 井上あゆ美・土井織江)

# おかやま民俗芸能フェスティバル2026秋 —令和8年度岡山県民俗芸能大会—のご案内

県内の民俗芸能団体が、それぞれの地域に伝わる民俗芸能の実演発表を行います。  
わかりやすい解説とともに、伝統を受け継ぎ、後世に伝える団体の熱演を観て、岡山県の民俗芸能に対する理解と関心を深めてみませんか。

**日時** 令和8年11月22日(日) 13時～(開場12時30分)

**会場** 美作文化センター(美作市湯郷826-4)

## 出演芸能及び出演団体

| 市町村等 | 出演芸能      | 出演団体        |
|------|-----------|-------------|
| 美作市  | 上山神社獅子舞   | 上山神社獅子舞保存会  |
| 鏡野町  | 布施神社のお田植祭 | 布施神社行事实行委員会 |
| 備前市  | 神根神社獅子舞   | 神根神社獅子舞保存会  |
| 高梁市  | 備中神楽      | 川上町子供神楽育成会  |

**解説** 田中英機氏(くらしき作陽大学客員教授)

**観覧料** 無料

**問合せ先** 県教育庁文化財課(086-226-7601)



備中神楽



布施神社のお田植祭



神根神社獅子舞



上山神社獅子舞